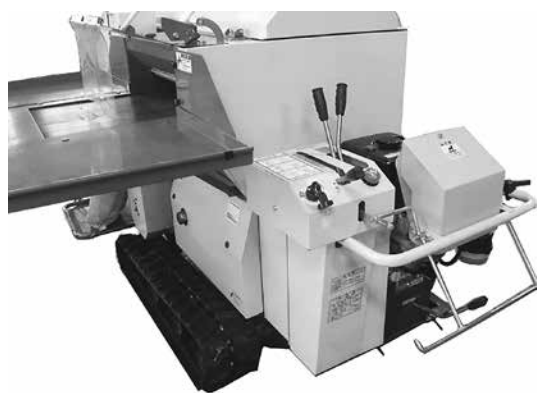


# ビーン スレッシャ

## 取扱説明書

### SJ-2502C



#### も く じ

##### ご使用になる前に

- はじめに ..... 1
- 安全のため必ずお守りください ..... 2
- 各部の名称とはたらき ..... 7
- 諸装置の説明 ..... 9
- 使用前の準備 ..... 12

##### ご使用にあたって

- 始動と走行 ..... 14
- 作業のしかた ..... 19

##### 知っておきたいこと

- メンテナンス ..... 21
- 長期格納のしかた ..... 31
- 不調の原因と処置 ..... 32

##### その他

- 仕様 ..... 33
- 安全確認一覧表 ..... 34

ご使用前に必ずお読みください  
いつまでも大切に保管してください

# はじめに

このたびは、本製品をお買上げいただきましてありがとうございます。

この取扱説明書には、本機の正しい安全な使いかた、保守点検などについて記載してあります。本機を安全に正しくお使いいただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みになって、本機の構造などをじゅうぶんご理解ください。

なお、仕様などの変更により、お求めいただいた製品と、本書の内容やイラストの一部が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

お読みになった後、必ず大切に保管し、わからないことがあったときは、いつでも取出してご利用できるようにしておいてください。

## ■危険防止

この取扱説明書では、必ず守っていただきたい重要な注意事項について、次のように表示しています。

### 1. 安全のため必ず守っていただきたいこと。

**⚠ 危険** ……もし守らないと、死亡または重傷事故を引起こします。

**⚠ 警告** ……もし守らないと、重傷事故を引起こすことがあります。

**⚠ 注意** ……もし守らないと、負傷事故を引起こすことがあります。

### 2. 機械の損傷を防ぐため必ず守っていただきたいこと。

**重要** ……もし守らないと、機械の故障や損傷につながります。

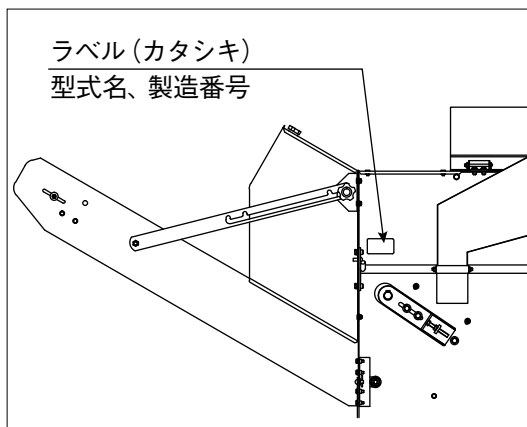
**補足** ……その他、使用上役立つ補足説明を示します。

## ■ご不明な点や不具合がありましたら

本書や本機についてご不明な点や、不具合がありましたら、無理に使用せず、ご購入店または弊社（本書のうら表紙記載）までお問合わせください。

軽い故障でも重大事故につながる場合がありますので、早期発見に心がけ、早めに整備してください。

故障や不具合が発生したときは、型式名と製造番号を必ずご連絡ください。



### ⚠ 警告

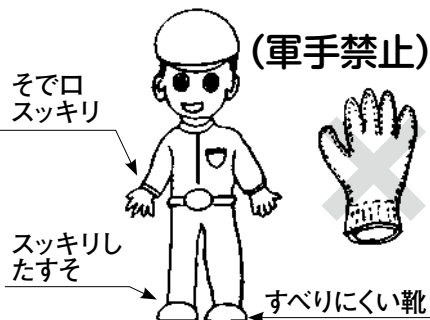
- 本機は大豆・黒大豆の脱粒機用として設計されています。小豆での作業をする場合は、別売の小豆キットを購入してください。その他の用途には使用できません。
- 改造して使用することは、しないでください。

# ⚠️ 注意 安全のために必ずお守りください

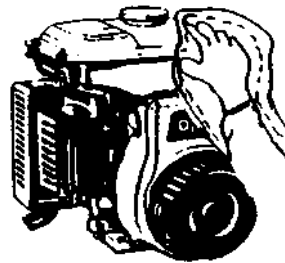
使用前にこの取扱説明書をよく読み、理解する

機械を他人に貸す場合は取扱い方法をよく説明し、あらかじめ取扱説明書をよく読ませる

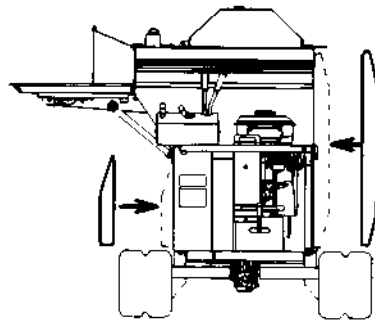
作業に合った服装



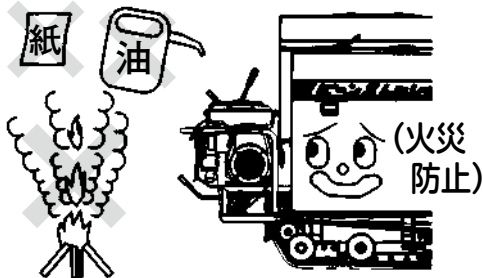
エンジンに付着したゴミなどは常に取除く (火災防止)



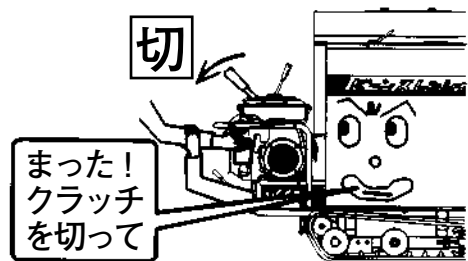
カバーは必ず取付けてから運転



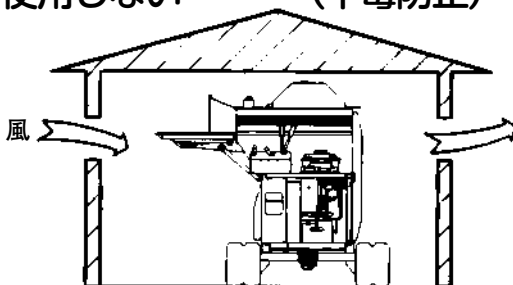
給油はエンジンを止めて、冷えてから、又周囲の火気厳禁



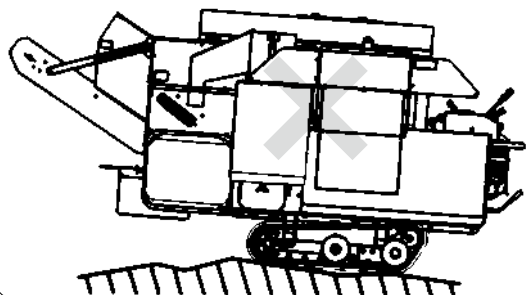
エンジン始動は周囲の安全を確認し、クラッチを切ってから



室内換気の悪い所、暗い所では使用しない (中毒防止)

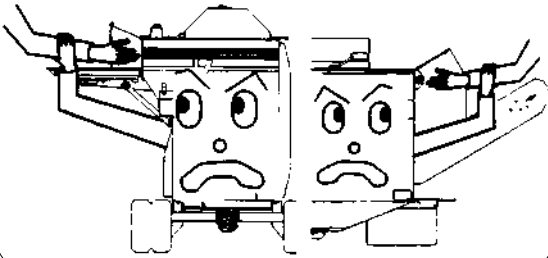


作業は水平でしっかりした場所で

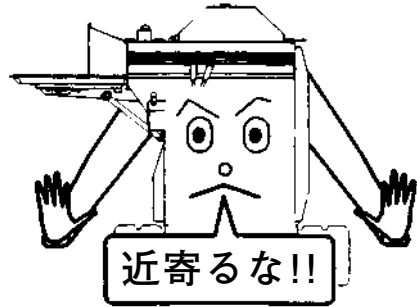


**!** **注意** 安全のために必ずお守りください

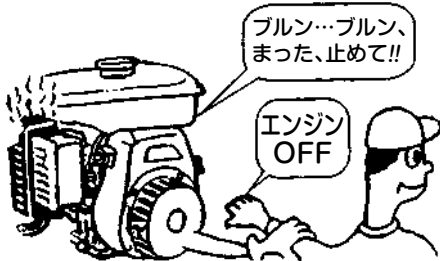
エンジン回転中は供給口や排出口へ絶対に手を入れない



エンジン回転中は人を近づけない



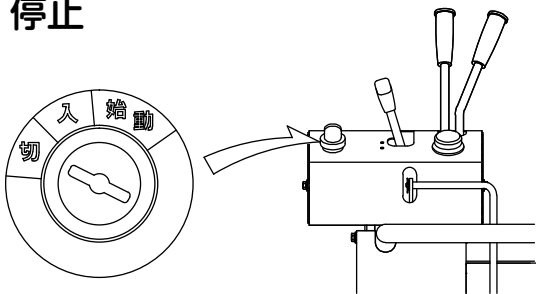
機械から離れる時はブレーキを掛け、エンジン停止し、冷えてから



エンジンの高温部には、絶対手を触れない



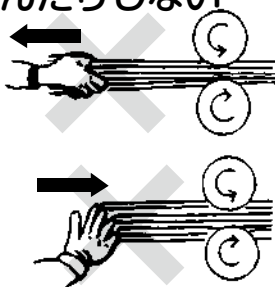
点検や調整時は必ずエンジン停止



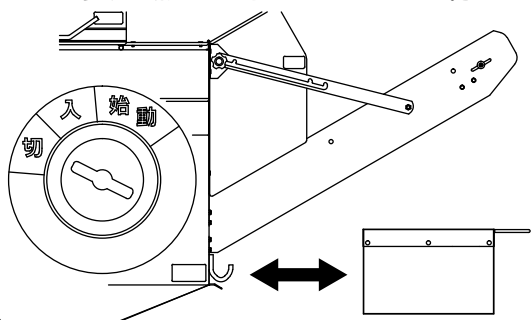
詰まりや異常発生時はすぐにエンジン停止



供給物を無理に引っ張ったり、押し込んだりしない



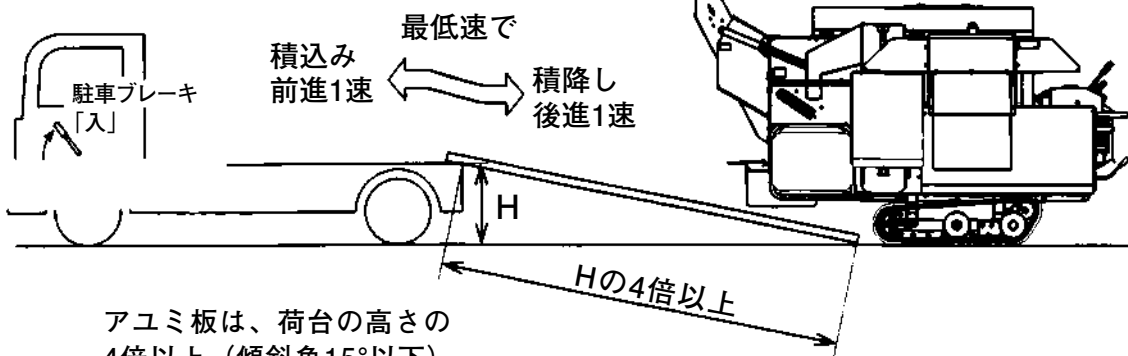
2番袋の脱着時はエンジン停止



**!** **注意** 安全のために必ずお守りください

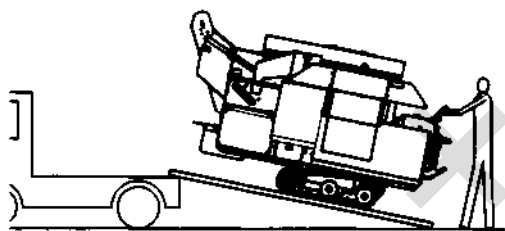
**積降し方向厳守**

から出し部をトラックに向ける

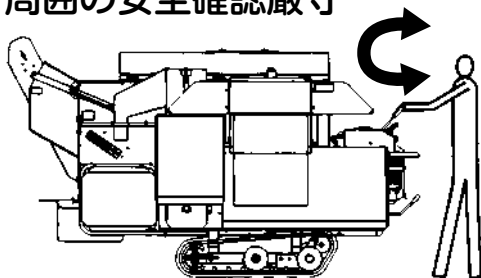


アユミ板は、荷台の高さの4倍以上（傾斜角15°以下）

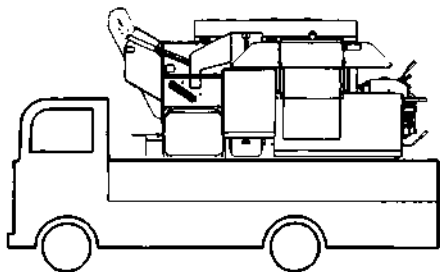
アユミ板上、傾斜地では変速、方向操作絶対禁止



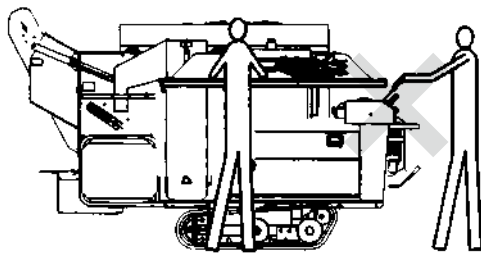
急発進、急旋回禁止、周囲の安全確認厳守



公道走行禁止、トラックで輸送



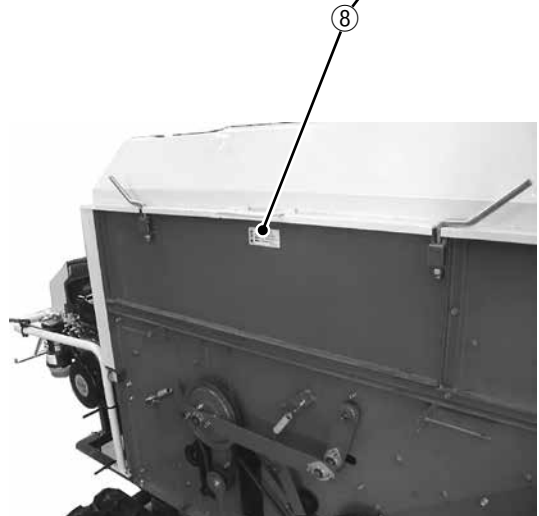
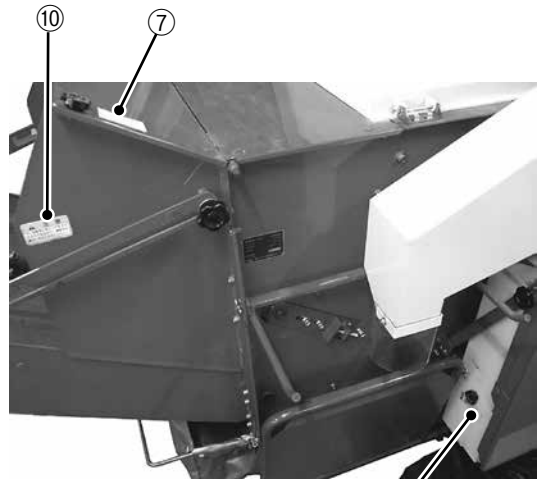
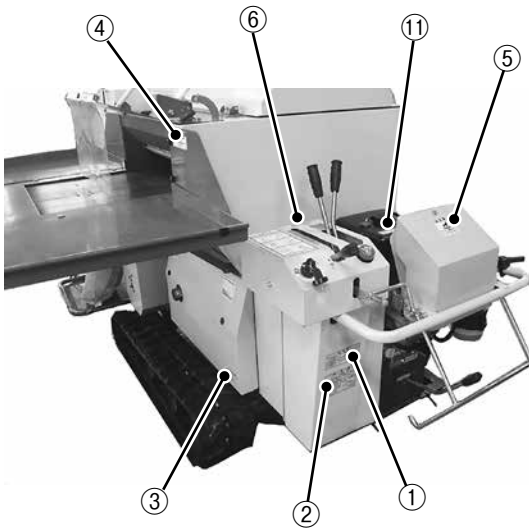
作業中の移動禁止  
脱穀クラッチを切ってから



# **注意** 安全のために必ずお守りください

## 使用前に安全ラベルをよく読む

- 本機には次の安全ラベルが貼ってあります。よくお読みになって、理解した上で作業してください。



# ⚠️ 注意 安全のために必ずお守りください

① 品番 71131-41171

## ⚠️ 注意

1. 取扱説明書をよく読み、機械の使い方をよく覚えてから使用のこと。
2. 取扱説明書がない場合は取寄せてください。
3. 必ず動力部の安全カバーを取り付けて使用のこと。
4. 点検整備時は、必ず動力を止めること。
5. 点検整備で取り外したカバー類は、必ず元通り取り付けること。

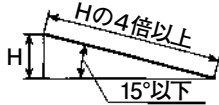
71131-4117-1

② 品番 19221-61222

## ⚠️ 注意

### トラックへの積み、降ろし

1. 積み込みは前進1速、積み降ろしは後進1速（常に、穀だし部をトラックに向ける）でエンジン回転を最低にして行ってください。反対側からの積み、降ろしは、大変危険ですので絶対に行わないでください。
2. アユミ板は、荷台の高さの4倍以上のものを使用してください。（傾斜角15°以下）



19221-61222

③ 品番 57422-71191



## ⚠️ 注意

このカバーを外したままで使用しないこと。  
中の回転物に巻き込まれることがあります。

57422-71191

④ 品番 19115-31911



## ⚠️ 危険

回転中この中に絶対手を入れないこと。  
中の回転物に巻き込まれケガをします。

19115-31911

⑪ エンジン付属

⚠️ 注意	⚠️ 警告	⚠️ 危険
マフラー高温注意 さわるとやけどをするおそれがあります。KW5625EAA	排ガスに注意 室内や換気の悪い所での運転は人体に有害で危険です。	火気厳禁 ・給油時エンジン停止・火災の危険あり。 ・給油口に火近づけないこと。

- ラベルはいつもきれいにし、ハッキリと見えるようにしてください。
- シンナーやアセトンなどの溶剤ではふかないでください。文字や絵が消えることがあります。
- ラベルが損傷・破損した場合は新しいラベルと交換してください。
- 安全ラベルを貼ってある部品を交換したときは、必ず新しい安全ラベルも取寄せ、取外した部品と同じ場所に貼ってください。

⑤ 品番 71335-41141

## ⚠️ 注意



エンジンに触れないこと。  
ヤケドをします。

71335-41141

⑥ 品番 71335-41131



発進・後退・旋回は低速で行うこと。  
急速発進等は、機械にはさまれたり、押し倒されたりして、大変危険です。

71335-41131

⑦ 品番 71713-71131

## ⚠️ 注意

1. フタを開く時は必ずエンジンを止めること。
2. 回転中はこのフタを必ず閉じる事。

71713-71131

⑧ 品番 53981-64341



### 掃除口

中に回転物がありケガをするので、  
清掃時はエンジンを必ず止めること。  
清掃後はフタを必ず閉じること。

53981-64341

⑨ 品番 53981-64321

## ⚠️ 注意

中に回転物がありケガをするので、  
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。  
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

53981-64321

⑩ 品番 53690-31292

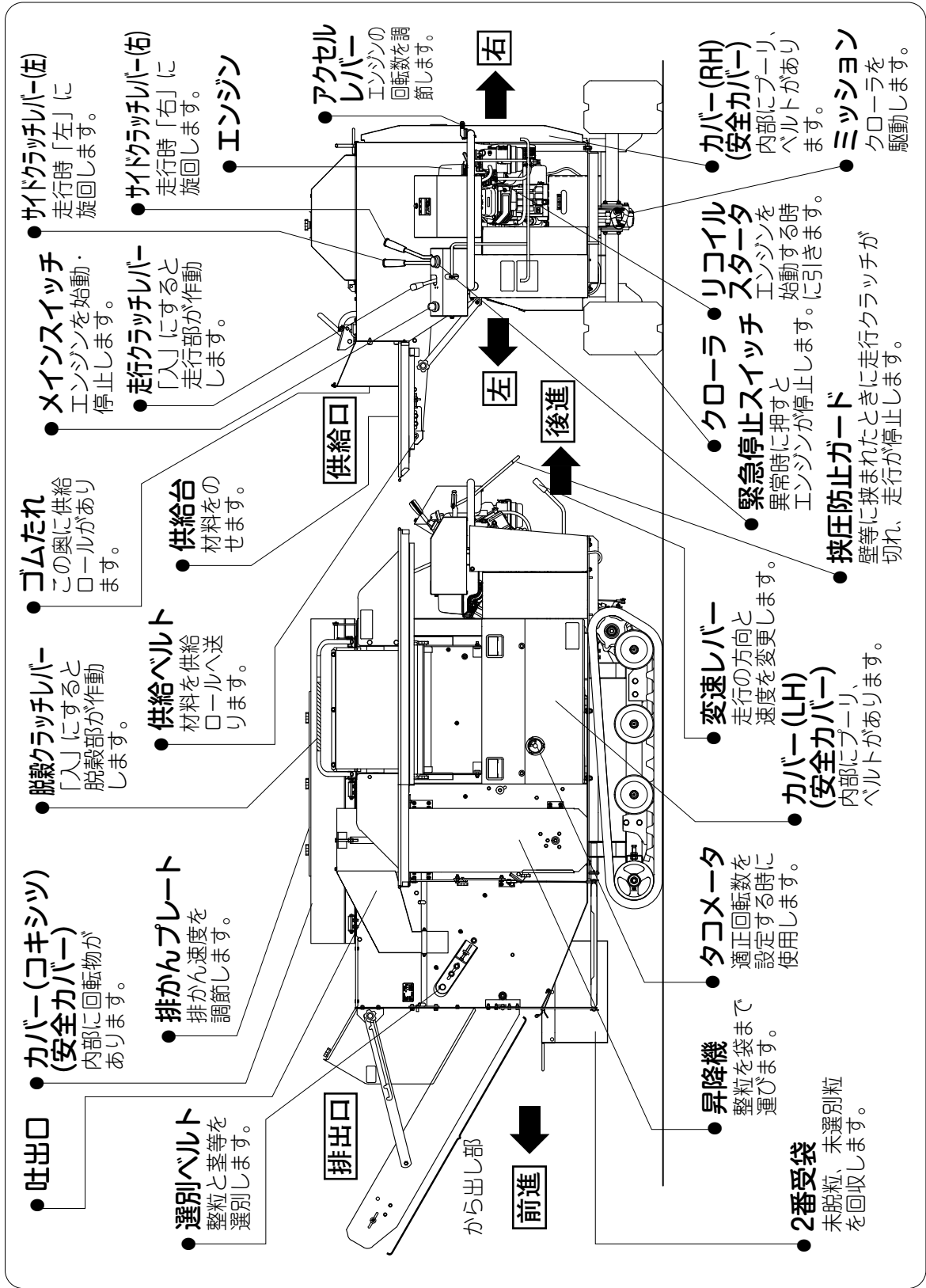
## ⚠️ 注意

中に回転物がありケガをするおそれがあるので、  
運転中は絶対に手を入れないこと。

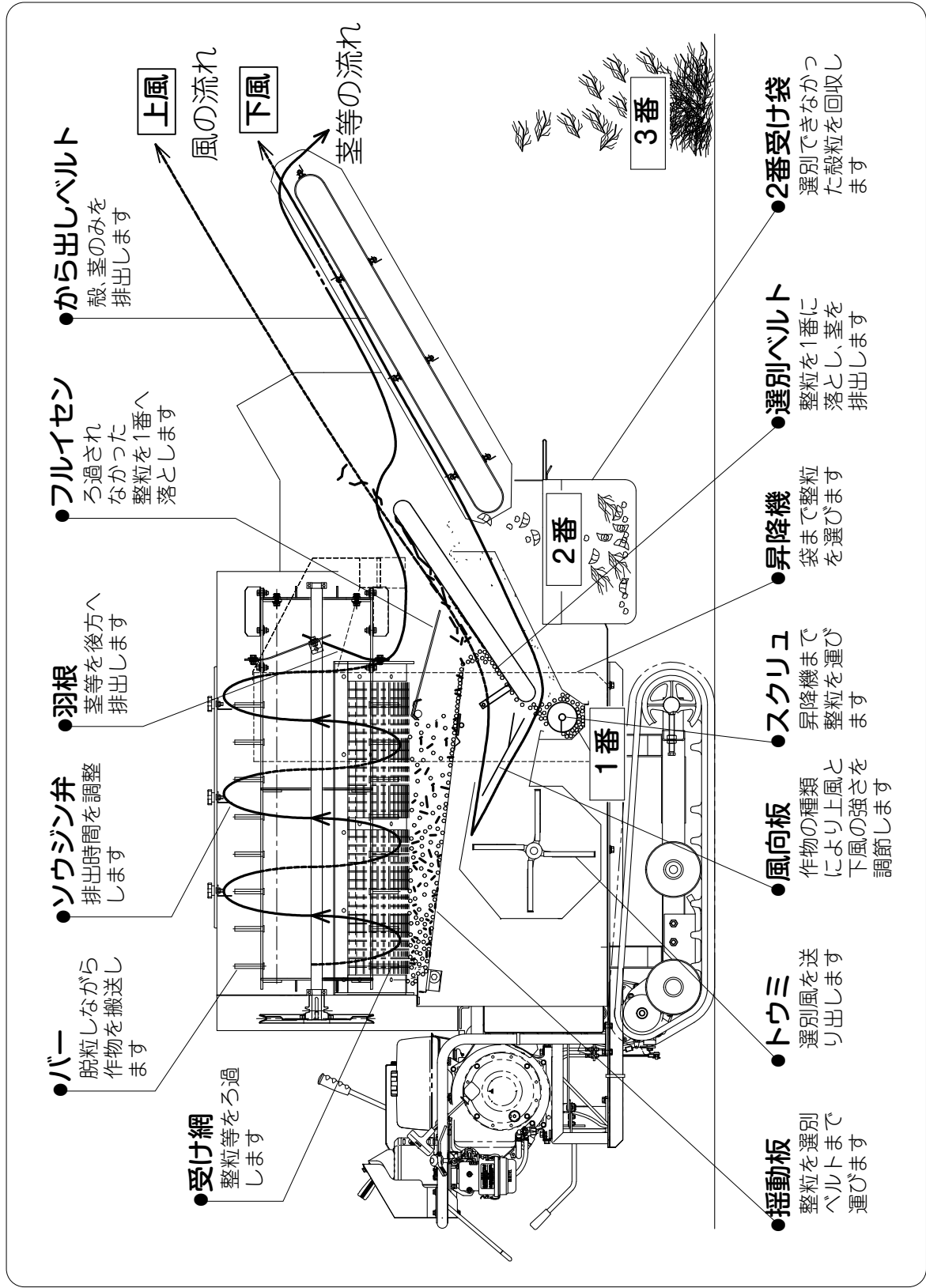
53690-31292



# 各部の名称とはたらき







# 諸装置の説明

## スイッチとリコイルスタータ



### ■メインスイッチ

エンジンの始動・停止を行なうスイッチです。



- [切] ……キーが抜き差しできるエンジン停止中の位置。
- [入] ……電気（電装）装置がはたらく位置。
- [始動] ……セルモータが回転し、エンジンが始動する位置。  
（走行クラッチレバーを「ブレーキ」、脱穀クラッチレバーを「切」、緊急停止スイッチを「運転」の位置にしないと、エンジンは始動しません。）

### ■補 足

※エンジン始動後、キーから手を離すとキーは、[入] の位置に戻ります。

### ■緊急停止スイッチ

危険を感じたときなど、非常時に押してエンジンを停止させるスイッチです。

停止……エンジン停止。

運転……エンジン始動・作業位置。

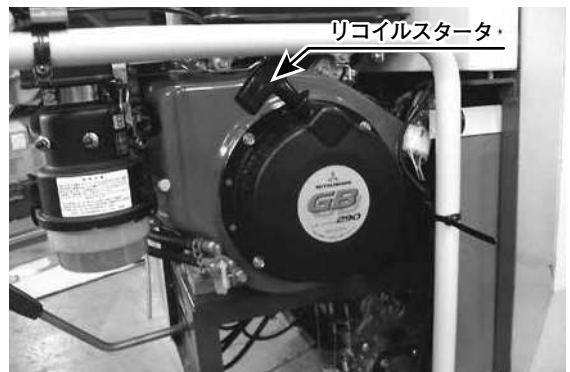
### ■補 足

※エンジンを非常停止するときは、停止スイッチを押してください。元に戻すときは、押しながら回してください。

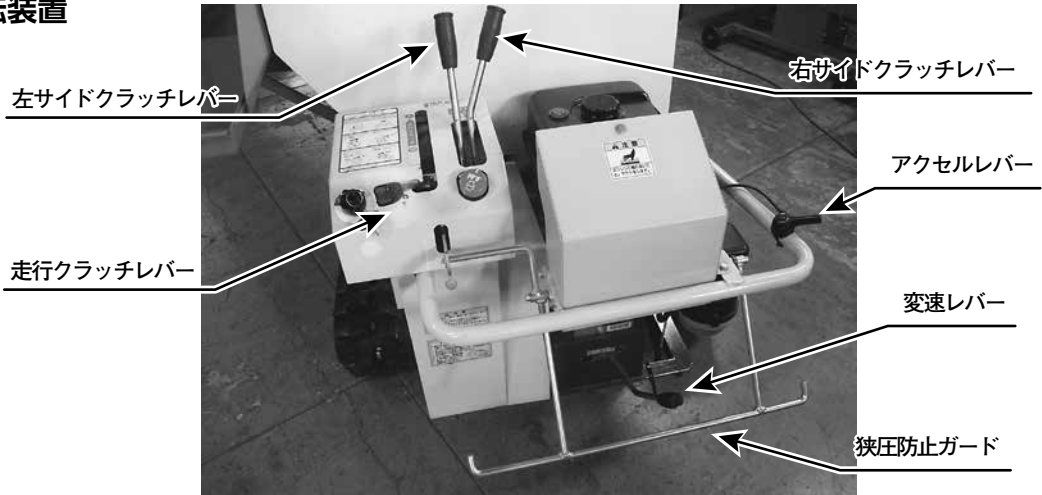


### ■リコイルスタータ

バッテリーが上がったときに、エンジンを始動させる装置です。



## 運転装置



### ■走行クラッチレバー

レバーを前方に倒すと「前進」「後進」します。レバーを後方に倒すと「停止」、ブレーキの位置で「駐車ブレーキ」が掛かります。



### ■アクセルレバー

エンジンの回転数を変えるレバーです。  
【低】…エンジン回転数「低速」の位置  
【高】…エンジン回転数「高速」の位置



### ■サイドクラッチレバー

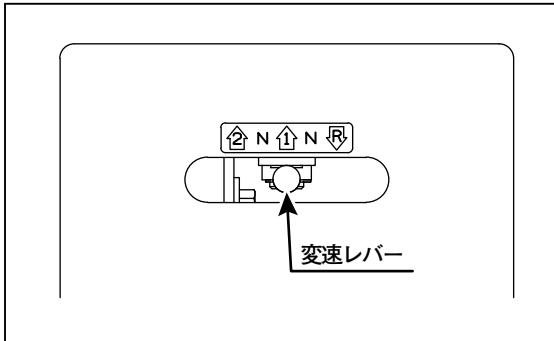
右サイドクラッチレバーを手前に操作すると右方向に、方向修正から右旋回までできます。左サイドクラッチレバーを手前に操作すると左方向に、方向修正から左旋回までできます。



## ■変速レバー

移動するとき走行速度を変えるレバーです。

「1」・「2」… 前進  
「N」 …… 中立  
「R」 …… 後進



## ■狭圧防止ガード

後進しているときに運転者が、壁や障害物に挟まれたときに、走行クラッチレバーを“切”に戻す装置です。



# 使用前の準備

## ⚠ 注意

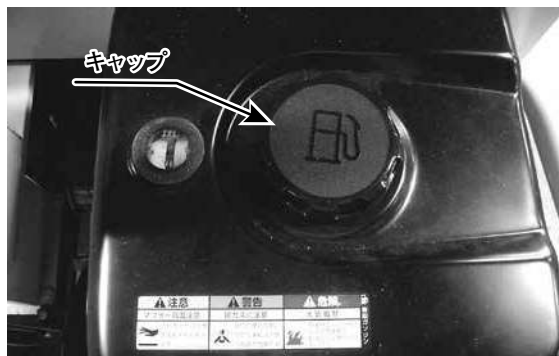
- 準備作業は必ずエンジンを停止し走行クラッチレバーを「ブレーキ」の位置で行なってください。

## 1. 燃料の給油

## ⚠ 警告

- 燃料の補給は必ずエンジンを停止し、完全に冷えてから行なってください。エンジンが熱い間はヤケドや火災の危険があります。
- 火気の近くや、くわえたばこでの燃料補給は絶対にしないでください。火災や爆発の危険があります。

- ① キャップをあけて燃料を補給します。

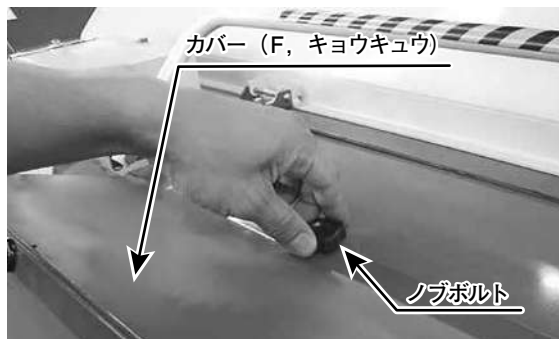


## 重要

- 燃料は自動車用レギュラーガソリンを使用し、それ以外は使用しないでください。
- 給油後はキャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふきとってください。

## 2. 供給部の準備

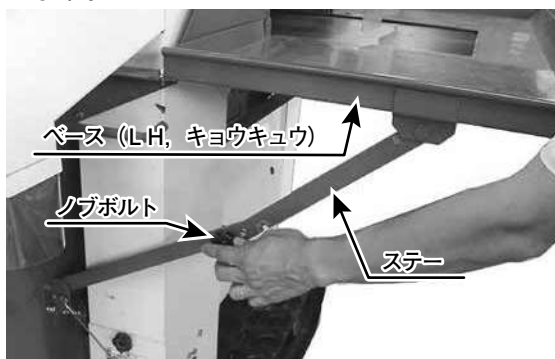
- ① カバー (F, キョウキュウ) を固定しているノブボルトを外し、図のように組み替えて固定します。



- ② カバー (RH, キョウキュウ) を固定している樹脂ボルトを外し、図のように組み替えて固定します。



- ③ ノブボルトをゆるめ、ベース (LH, キョウキュウ) を上方に起こします。このとき、ステアを押し下げ、ノブボルトで確実に固定します。

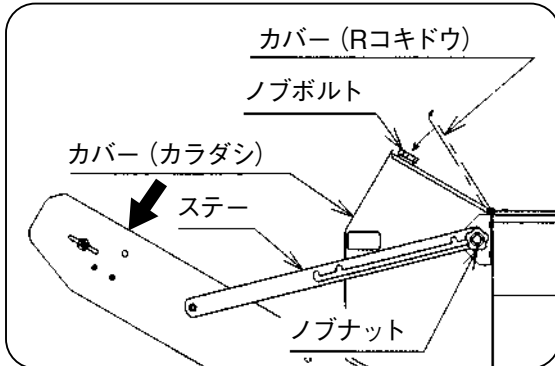


- ④ ベース (キョウキュウ) を固定している (左裏側) ノブナットをゆるめ、上方に起こします。このとき、左右のステアのかぎ穴で支え、ノブナットで確実に固定します。
- 格納時は逆の手順で行なってください。



### 3. から出し部の準備

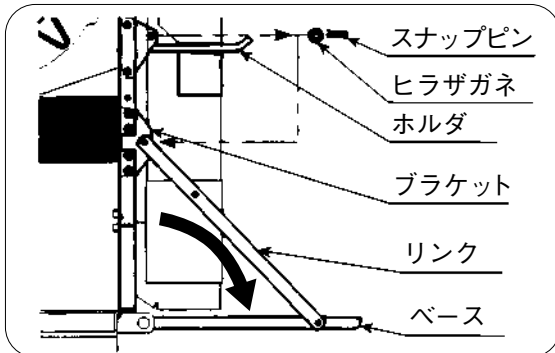
- ①左右のステーを固定しているノブナットをゆるめ、から出し部を保持しながら倒します。
- ②最前端のかぎ穴に入れ込み、ノブナットで左右確実に固定します。(※から出し角度は2段階の設定ができます。)



- ③出荷状態でカバー (カラダシ) に仮止めしているノブボルトを取り外し、カバー (Rコキドウ) を下方に倒し、ノブボルトで固定します。

### 4. 1番受け袋の設定

- ①リンクを固定しているスナップピン、ヒラザガネを外し、リンクのピン部をプラケットの穴に入れ込み、ヒラザガネ、スナップピンの順序でベースを固定します。



- ②1番受け袋をホルダに差し込み、昇降機のホース口を1番受け袋の口の中に入れ込みます。



### 5. 作物条件による設定切換え

#### (1) トウミ風力の調整

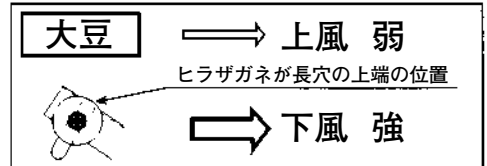
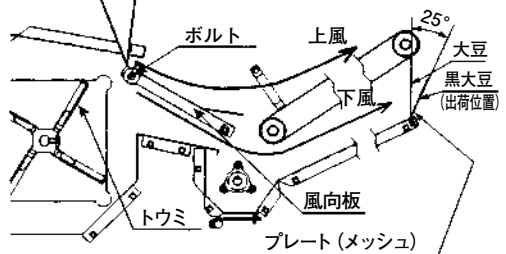
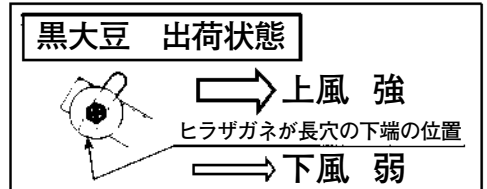
大豆、黒大豆ごとに、トウミ風力を調整してください。

- ①カバー (RH) を外し、風向板を固定しているボルトをゆるめ、設定位置で固定します。
- ②トウミの下風の強さに合わせて、プレート (メッシュ) の曲げ角度を調整してください。

豆は外に出ず、茎、さや等は、外に飛ばされる角度に調整してください。

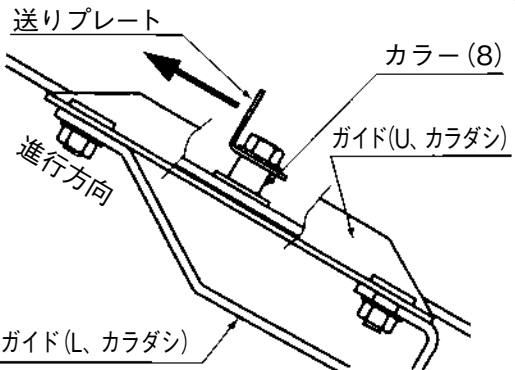
作物条件により調整は異なりますが、目やすは下図の通りです。

#### 風向板の調整の目やす



#### (2) から出し部の送りプレートの高さ調節

大豆で使用する場合は、から出し部のカラー (8)、ガイド (U、カラダシ)、ガイド (L、カラダシ) を外して作業してください。





## 6. 作業場所の選定

### 重要

- 機械の性能を維持するため、次のような場所での作業は避けてください。

- ① 地面のやわらかい所や、凸凹のある場所、傾斜地。
  - ② 雨風の当たる所。
  - ③ 供給口が風下側になる所。
  - ④ 換気の悪い所(屋内作業の場合)
- ①～③の条件下での作業は、選別性能が低下します。

### 警告

- 密閉した又は通気性の悪い所では絶対に作業しないでください。排気ガスが充満して中毒死するおそれがあります。
- 火気のある所では絶対に作業しないでください。排出された茎などに引火し、火災のおそれがあります。
- 水平で平坦な場所で作業してください。傾斜地や不安定な所では、作業時や移動時に、転倒したりする危険があります。

## 始動と走行

### 警告

- 本機には照明灯が付いておりません。暗くなってからの作業は行なわないでください。
- 機械から離れるときは必ずエンジンを停止し、ブレーキを掛け冷えるまで待ってからしてください。
- エンジン回転中と停止後10分位はエンジンに触れないでください。ヤケドをします。

### 始動のしかた

### 警告

- この取扱説明書前編の黄色のページの「安全に作業するために」の内容を必ずお読みいただいて、安全作業を心掛けてください。
- エンジンの排気ガスによる、排気ガス中毒をさけるため、換気の悪い納屋・倉庫でエンジンを回さないでください。
- 始動操作は、周囲の人に始動の合図をしてから行ってください。
- カバー類を外したままで、エンジンを始動しないでください。回転体に巻き込まれケガをします。

#### (1) 走行クラッチレバーの確認

走行クラッチレバーを「ブレーキ」の位置にします。



#### (2) 脱穀クラッチレバーの確認

脱穀クラッチレバーを「切」の位置にします。



#### (3) 緊急停止スイッチの確認

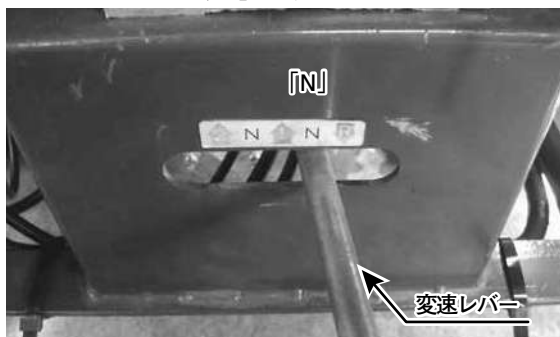
緊急停止スイッチを「運転」の位置にします。





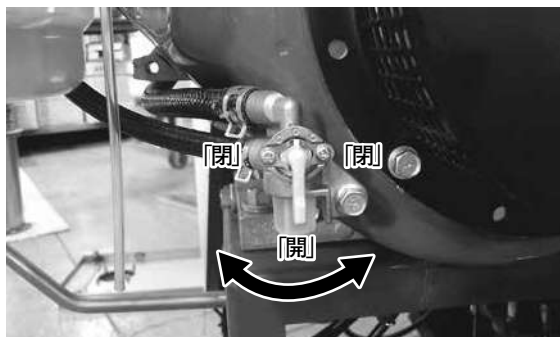
#### (4) 変速レバーの確認

変速レバーを「N」の位置にします。



#### (5) 燃料コックレバーの確認

燃料コックレバーを「開」の位置にします。



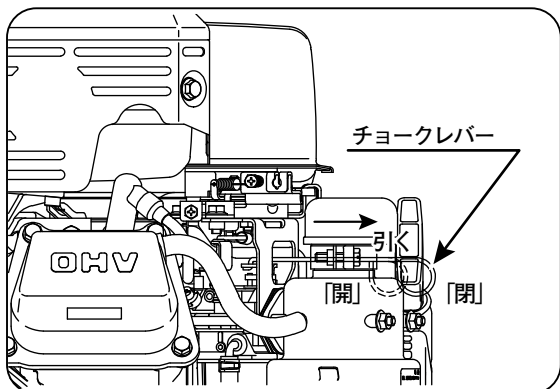
#### (6) アクセルレバーの確認

アクセルレバーを「低速」と「高速」の中間位置にします。



#### (7) チョークレバーの確認

チョークレバーを引いて「閉」の位置にします。



#### (8) メインスイッチの操作

- ① キーを差込み「入」の位置にします。
- ② 周囲の人に合図をして、安全を確認してから「始動」まで、キーを回します。エンジンが始動したら、キーから手をはなしてください。



#### (9) チョークレバーの確認

チョークレバーを戻して「開」の位置にします。

#### 重要

- キーを「始動」位置にし、セルモータを回して5秒たってもエンジンが始動しないときは、いったんキーを「切」にして、10秒休んでから、エンジンを再始動してください。

#### 暖気運転のしかた

#### 警告

- 暖気運転中は、必ず平地で、走行クラッチレバーを「ブレーキ」、脱穀クラッチレバーを「切」、変速レバーを「N」にしてください。

始動後、5分間は負荷をかけずに暖気運転をしてください。オイルを各部にじゅうぶんゆきわたらせるため、始動してからすぐ負担をかけると、運転部分の焼付けや破損など故障の原因となりますのでご注意ください。

## 寒冷地の始動のしかた

寒冷地は、チョークレバーを引いてからエンジンを始動してください。

低温時はバッテリーの出力特性が弱くなるため、始動できない場合があります。このときは、リコイルにてエンジンを始動してください。

## バッテリーが上がったときの始動のしかた

バッテリーが上がってエンジンが始動できなくなったときは、リコイルで始動してください。

### 重要

- リコイルでエンジンを始動するときは、走行クラッチレバーを「ブレーキ」、脱穀クラッチレバーを「切」、緊急停止スイッチを「運転」キーを「入」の位置にして、リコイルスタータのハンドルを引いてください。

## 停止のしかた

- ① 走行クラッチレバーを「ブレーキ」の位置にします。
- ② 脱穀クラッチレバーを「切」の位置にします。
- ③ キーを「切」の位置にしてエンジンを停止します。

### 重要

- 緊急停止スイッチは、非常時以外は、使用しないでください。
- エンジン停止中でキーが「入」の位置で長時間放置すると、電流が流れたままですので、バッテリー上がりの原因になります。

## 発進と走行

### 警告

- エンジンを始動するときは、走行クラッチレバーを「ブレーキ」、脱穀クラッチレバーを「切」、緊急停止スイッチを「運転」の位置にしてください。
- 発進するときは、周りの人に合図をし、安全を確認してください。
- 急発進は危険ですので、ゆっくりと発進してください。

- ① エンジンを始動します。（14ページ参照）
- ② アクセルレバーを「低速」にします。



- ③ 変速レバーを「1」（前進）か「R」（後進）に合わせます。



### 警告

- 前進、後進、旋回するときは、必ず周囲の安全を確認してください。
- 変速レバーの位置を「2」（高速）で発進させるときは、急発進して大変危険ですので、極力アクセルレバーを「低」の位置に行なってください。

- ④ 走行クラッチレバーを静かに「入」にし、走り出した後、アクセルレバーを上げます。

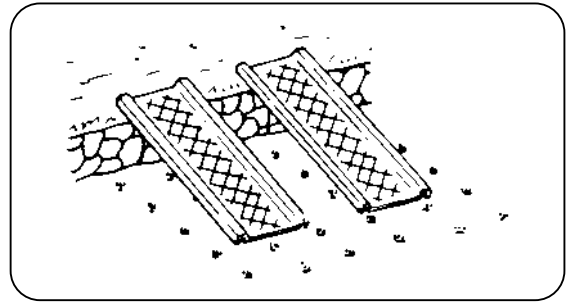


- ⑤ サイドクラッチレバー（右）（左）を操作して方向を変えます。



**警告**

- 傾斜地での変速レバーの操作は暴走する危険がありますので、絶対に行なわないでください。
- 変速レバーの切換えは平坦な場所で、走行クラッチレバーを「ブレーキ」の位置にして、走行をいったん止めてから行なってください。
- 走行中に脱穀部が回転しますと大変危険ですので、走行するときは必ず、脱穀クラッチレバーを「切」の位置にしてください。
- 旋回するときは、必ず低速で行なってください。
- 砂利道での急旋回は、クローラに石がかみこみ故障するおそれがありますので避けてください。
- あぜの乗り越えは、低速であぜに直角に進入してください。10cm以上のあぜ、またはコンクリートの畦畔は必ずあゆみ板を使用してください。
- ほ場への移動は、必ずトラックで移送してください。公道走行は、交通法規違反になります。



**駐車・停車**

- ① 走行クラッチレバーを「ブレーキ」の位置にします。
- ② 変速レバーを「N」（中立）にします。
- ③ キーを「切」にします。



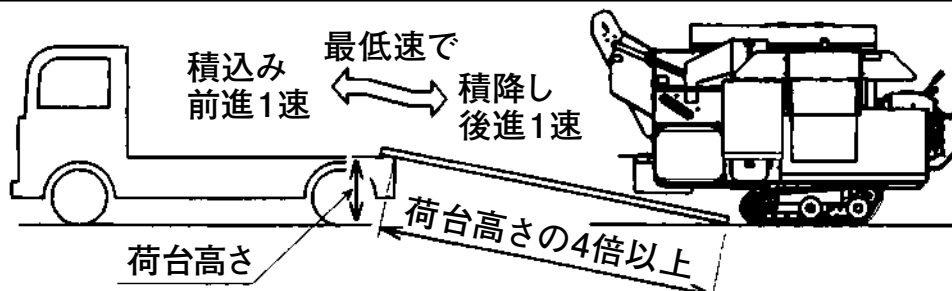
**警告**

- 機械を離れるときは、なるべく平坦な安定した場所に置き、エンジンを止め、走行クラッチレバーを「ブレーキ」の位置にしてください。
- 坂道で駐車するときは、木片などで車止めをして、暴走を防止してください。

## トラックへの横込み、積降しのしかた

### 警告

- 本機のトラックへの積降しには、方向があります。方向をあやまると転倒する危険がありますので絶対に守ってください。積み込みは前進1速、積降しは後進1速で（から出し部をトラックに向ける）アクセルレバーを最低の位置で行なってください。



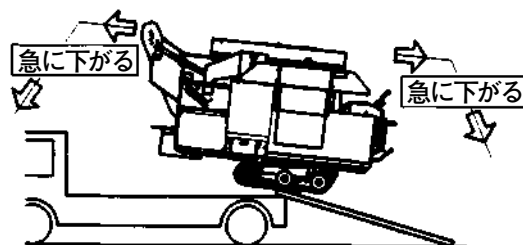
### 警告

- あゆみ板は、じゅうぶんな強度、幅（クローラの1.2倍以上）、長さ（高さの4倍以上）のある、基準に合ったすべり止め付きのものを使用し、平たんで、機械の重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。

あゆみ板の基準

長さ	トラックの荷台高さの4倍以上
幅	30cm以上
数量	2枚
強度	1枚が500kg以上の重量に耐えうる

- あゆみ板のフックは荷台に段差のないように、また、ずれないように確実に掛けてください。
- 左右サイドクラッチの操作は、あゆみ板の上では行わないでください。もし、操作すると急に方向転換し落下するおそれがあります。
- あゆみ板の上で主クラッチを切ると機体が急降下して非常に危険です。万一クラッチを切る場合は、ブレーキがかかるよう、すみやかにクラッチを「ブレーキ」位置に入れてください。また、あゆみ板の途中で変速「N」にすると、機械が急降下して危険です。変速を「N」にしないでください。
- 平たん地を選び、できるだけ助手立合い誘導のもとに行なってください。また、機械の周辺に人を近づけないでください。
- 機体がトラックの端を越えるときは、急に姿勢が変わりますので、じゅうぶん注意してください。



## 輸送時の注意

### 危険

- 積み込み、積降ろしはトラックの駐車ブレーキをしっかりと掛けてください。
- トラックの上では、機体をロープ掛けし、しっかりと固定してください。
- トラックの上では、走行クラッチレバーを「ブレーキ」の位置にして、車止めをしてください。

# 作業のしかた

## ⚠ 危険

- エンジンの回転中は供給口及び排出口の中に絶対手を入れないでください。中の回転物に巻き込まれ大ケガをします。

## ⚠ 警告

- エンジン回転中は周囲に人を近づけないでください。特に子供さん達に注意してください。
- 軍手は使用しないでください。供給ロールに巻き込まれて大ケガをするおそれがあります。
- 作業中に詰まりなどの異常が発生した場合は、すぐにエンジンを停止し、回転が止まってから点検してください。
- 供給物を引っ張ったり押し込んだり、付着物を手で取ったりすることは絶対にしないでください。
- 供給物に異物（石、工具、金属等）が混入しないように注意してください。

## 1. 作物の作業条件

### (1) 作物の乾燥状態

〈大豆、黒大豆〉

本機の性能をじゅうぶんに発揮させるために、作物は極力乾燥させてください。ただし、黒大豆での過乾燥は割れや表皮のはく離の原因となりますのでじゅうぶんに注意してください。

作業適期は、下図の条件の時です。

振るとカラカラ音がする

葉／全部落ちて残っていない。

莢（水分20%前後）指でさわってもベトつかない。

茎／乾いて、指でさわってもベトつかない。枯れていて折れやすい。

子実（水分18%以下）噛むと歯形がつく。



## 重要

- 葉や茎がまだ青く水分が多いと、選別部の目づまりや、スクリュ搬送部での詰まりなど、トラブルの原因となります。

### (2) 根の切断

作物の根は切断して下さい。

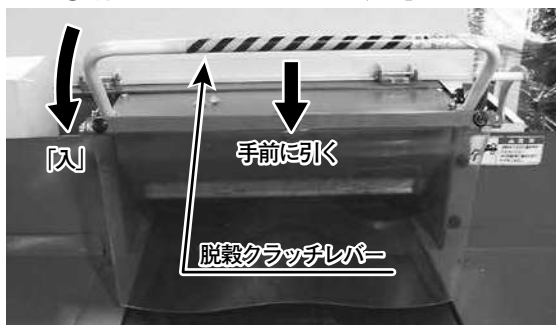
## 重要

- 機体内に土が入ると汚粒が発生したり、詰まりなど、トラブルの原因となります。

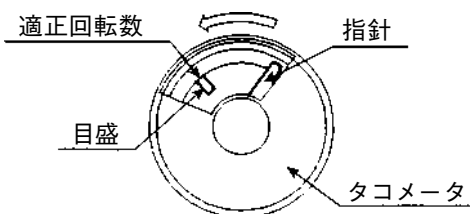
## 2. 脱穀作業

### (1) 回転数の設定のしかた

- ① エンジンを始動します。（14ページ参照）
- ② 脱穀クラッチレバーを「入」にします。



- ③ 機体左側のタコメータの指針が目盛り合うように、アクセルレバーで調節します。



## 重要

- 回転数の設定が合わないと、詰まりや搬送不良など、トラブルの原因となりますので、必ず目盛りに合わせて設定して下さい。

## 危険

- 大変危険ですので、脱穀作業中の走行移動は絶対に行わないでください。走行移動する時は必ず脱穀クラッチを「切」にしてください。

### (2) 供給作業のしかた

供給は材料をできるだけ均平に広げ、縦向きに行なってください。方向はどちらでもかまいません。かためて供給しますと馬力を要するだけでなく脱粒性能も低下します。

### (3) 2番の再供給

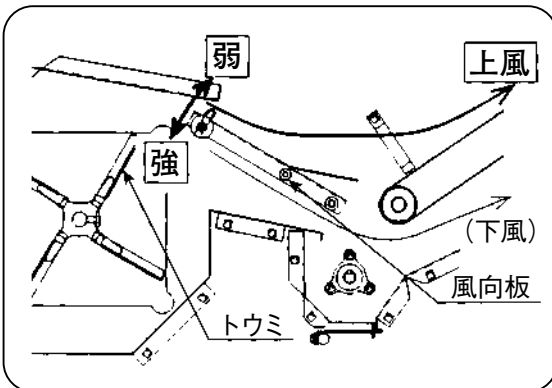
2番受け袋がいっぱいになったら、再供給してください。  
供給時は、供給ベルトの上に均平のせて少しずつ供給してください。  
一度に大量に供給すると、詰まりやトラブルの原因となります。

## 警告

- ムリに押し込んで供給することは絶対にしないでください。ロールに巻込まれ大ケガをします。
- 2番の袋を脱着する時は、必ずエンジンを停止してから行なってください。

### (4) トウミ風力の調節

2番袋へ整粒が多く出る時は、上風を弱くし、1番袋へ枝やさや等が多く入る時は強くしてください。



### (5) 作物の乾燥条件について

#### 〈われ、表皮のきれつが発生する場合〉

黒大豆の場合、過乾燥になりますと、損傷粒の発生が多くなります。その場合はアクセルレバーでエンジン回転を少し低くして作業することもできます。

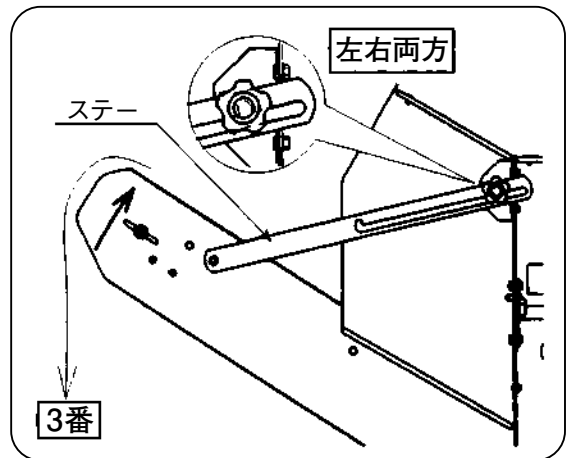
あまり低くし過ぎますと、詰まり等のトラブルの原因となりますのでご注意ください。

#### 〈未脱粒が多い場合〉

未脱粒のほとんどは2番袋に回収されます。再度、乾燥調整した後、再投入してください。

### (6) 3番に豆が多く出る場合

から出しの角度は、ステアの調整で2段階に設定できます。3番に豆が多く出る場合は、角度を1段上げてください。

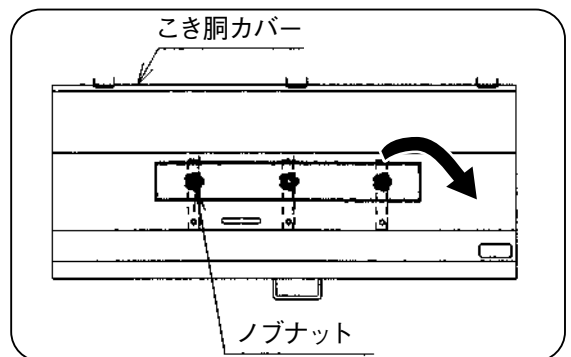


### (7) 排かん速度の設定

こき胴内の作業の送り速度を調整することができます。

通常の作業では、標準位置で作業してください。作物の乾燥条件が良く、脱粒性能に変わりがない場合は排かん速度を上げることができます。

- ① こき胴カバー上部のノブナット3個をゆるめ調整してください。





# メンテナンス

## 各部の開閉と脱着のしかた

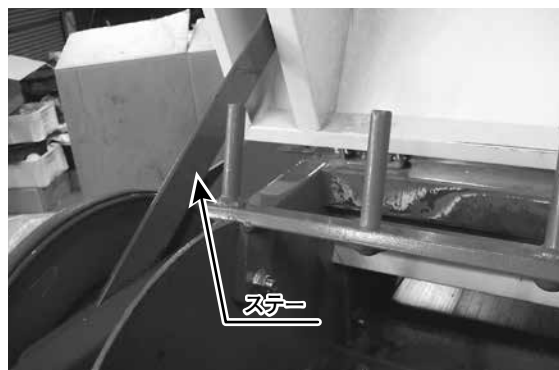
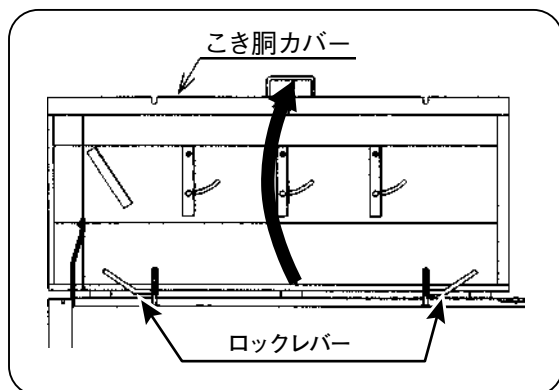
### ⚠ 警告

- 平たんで安全な場所に置き、走行クラッチレバーを「ブレーキ」の位置にして、エンジンを止めてください。
- 取外したカバー類は、必ず取付けてください。
- 傾斜地では、開閉や脱着を行なわないでください。
- マフラーカバーなど高温部に接触してヤケドをするおそれがあるので、冷えてから行ってください。

### ■ こき胴カバーの開閉

#### ◆ 開きかた

ロックレバーを解除し、持ち上げて開きます。開く途中でステアがセットされカバーが固定されます。

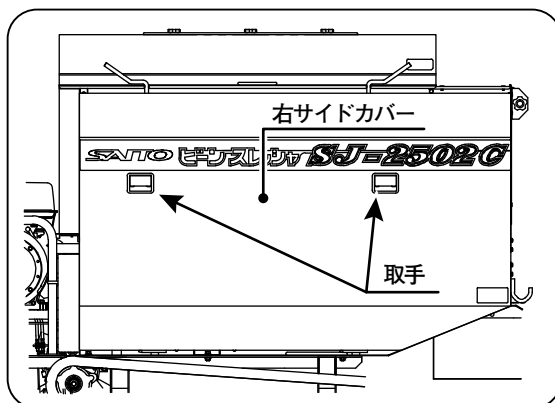


#### ◆ 閉じかた

ステアを持ち上げて解除し、閉めたあとロックレバーで固定します。

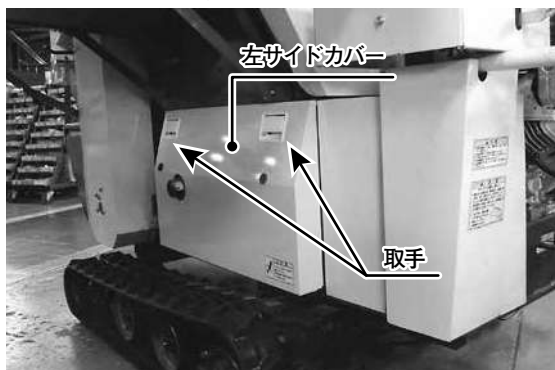
### ■ 右サイドカバー

取手を手前に引き、カバーを開き、右方向へスライドして外します。



### ■ 左サイドカバー

取手を手前に引き、カバーを開き、左方向へスライドして外します。



### ■ フロントカバー

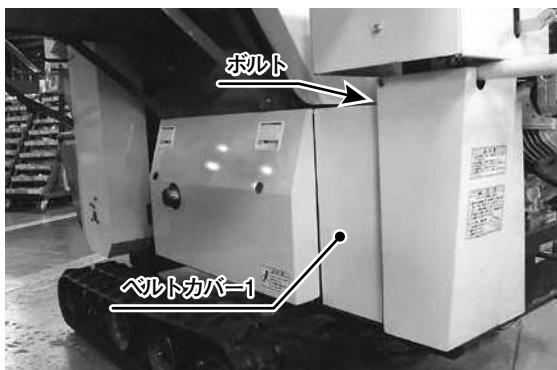
こき胴カバーを開いて、少し持ち上げて外します。





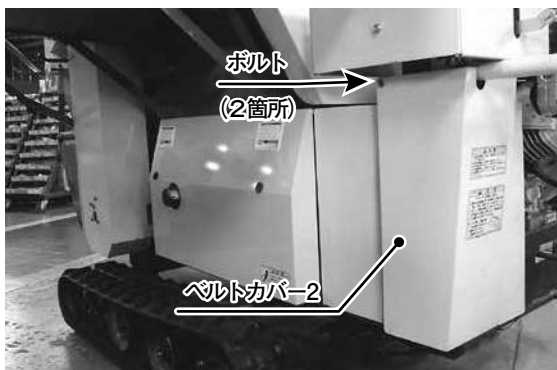
### ■ベルトカバー1

ボルトを外して、少し持ち上げて外します。



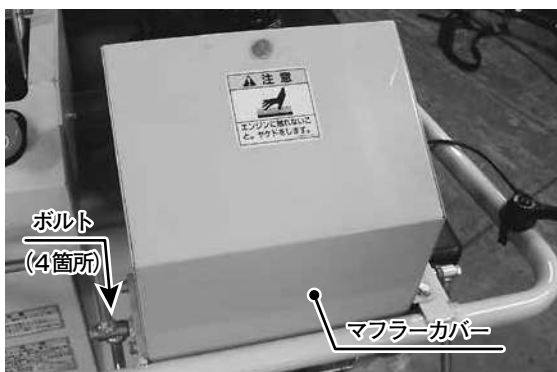
### ■ベルトカバー2

ボルトを外して、少し持ち上げて外します。



### ■マフラーカバー

ボルトを外すと外れます。



## 日常点検

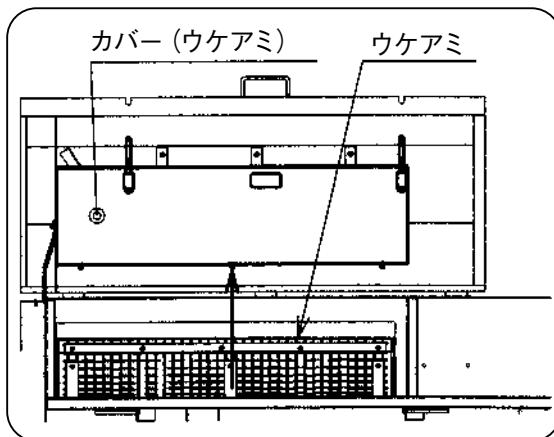
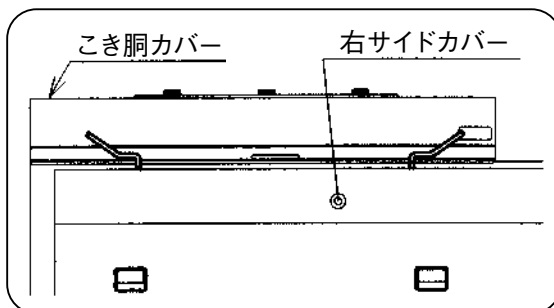
### ⚠ 警告

- 各部の調整、点検、交換を行なうときは、エンジンを必ず停止させ、走行クラッチレバーを「ブレーキ」、脱穀クラッチレバーを「切」の位置にして、回転部を止めてから作業してください。
- 取外した回転部のカバー類は、衣服などが巻き込み危険ですので、点検後は必ず取付けてから作業してください。
- エンジンがじゅうぶんに冷え、ヤケドのおそれがないことを確認してください。
- 機械は平たんで、周りに燃えやすいごみのない場所へおいてください。マフラーやエンジン周辺部にごみや燃料の付着、泥のたい積などがあると火災の原因になります。
- 燃料、オイルがこぼれた場合は、きれいにふき取ってください。

### ■掃除・点検

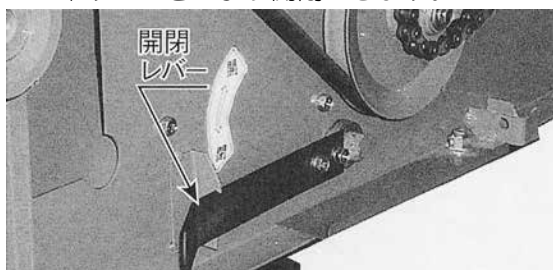
#### 1. ウケアミの掃除

ウケアミ部の付着物を掃除するときは、右サイドカバーを外し、こき胴カバーを開きます。カバー（ウケアミ）を上方へ取外したあと、ウケアミを手前に引き出します。



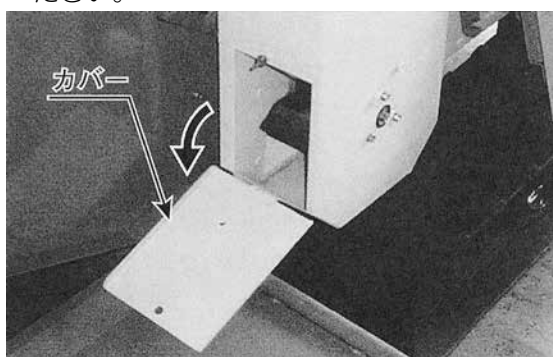
## 2. スクリュ搬送下掃除口

スクリュ内にたまった整粒を取り出すときは、右サイドカバーを外し、掃除口開閉レバーを上下することにより開閉できます。



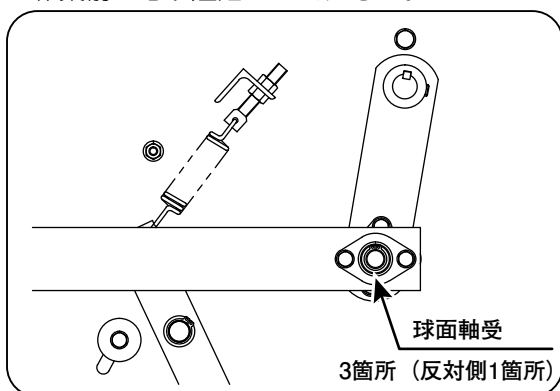
## 3. 昇降機掃除口

昇降機内にたまった整粒を取り出すときは、ノブナットを外し、カバーを下方へ開いてください。



## 4. 球面軸受への注油

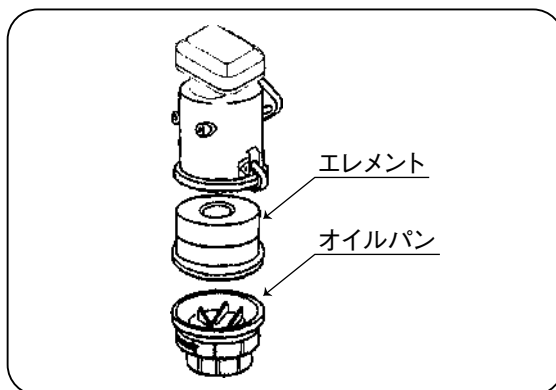
作業前に必ず注油してください。



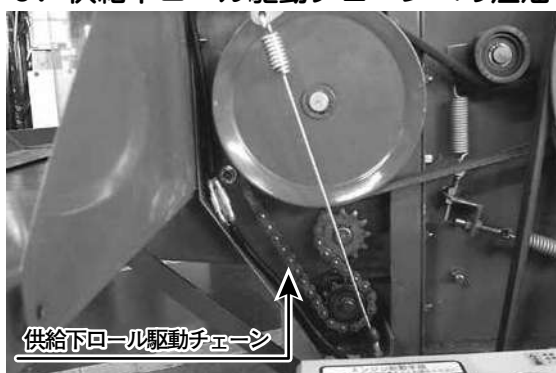
## 5. エアクリーナの掃除

毎日作業前にエアークリーナーのエレメントを点検し、汚れていれば掃除してください。

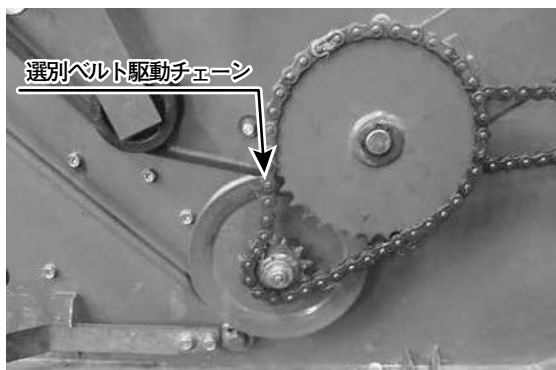
- ①エレメントを取り外し、灯油又は家庭用洗剤でよく洗い、洗浄液を振り切ってから取付けます。
- ②エレメントを掃除するときは同時にオイルパンもよく洗いオイルも交換してください。



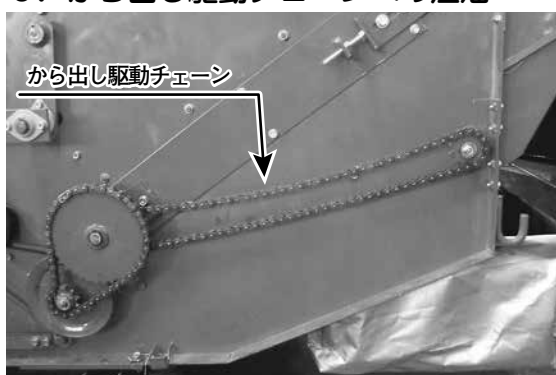
## 6. 供給下ロール駆動チェーンへの注油



## 7. 選別ベルト駆動チェーンへの注油



## 8. から出し駆動チェーンへの注油



## 定期点検

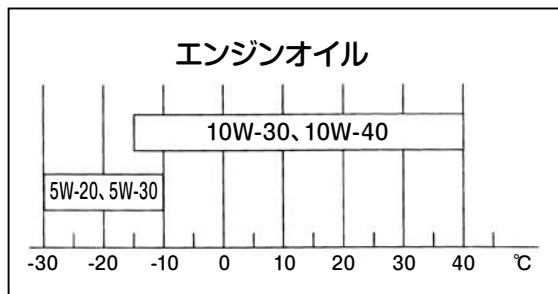
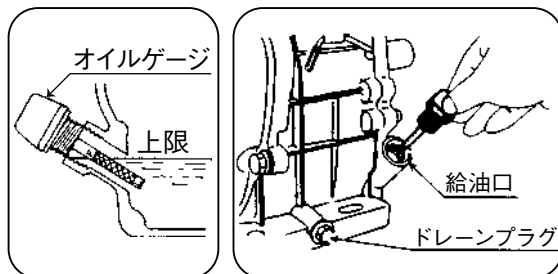
### 警告

- 点検、交換を行なうときは、エンジンを必ず停止させ、エンジンがじゅうぶんに冷えてから、メインスイッチのキーを抜いて行ってください。  
ヤケドをするおそれがあります。

## 1. エンジンオイルの点検と交換

### (1) オイルの点検

エンジン停止後、数分たってからオイルゲージを抜いて、先端をきれいにふき取ります。もう一度いっぱいまで差込んでから抜き、ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは、給油口から規定量になるまで給油してください。さらに油もれのないことも調べてください。



### 重要

- エンジンオイルをオイルゲージの上限以上に給油しないでください。エンジントラブルの原因になります。

### (2) オイルの交換

オイルの交換は1回目20時間、2回目以降は100時間毎に行なってください。

- ①ドレーンプラグを外し、オイルを排出します。
- ②排出が終わりましたら、ドレーンプラグを取付けます。

### 重要

- ドレーンプラグを締め忘れると油もれが発生し、エンジントラブルの原因となります。

### (3) オイルの給油

ドレーンプラグを締め付けて、給油口から規定量のオイルを給油してください。

オイルの種類	規定オイル容量
SE級以上	1L

### 重要

- 指定以外のオイルを使用すると、出力が低下したり、エンジンオイルが異常に消耗、または劣化し、エンジントラブルの原因となります。

エンジンを始動し、アイドリング状態で約1分間運転します。

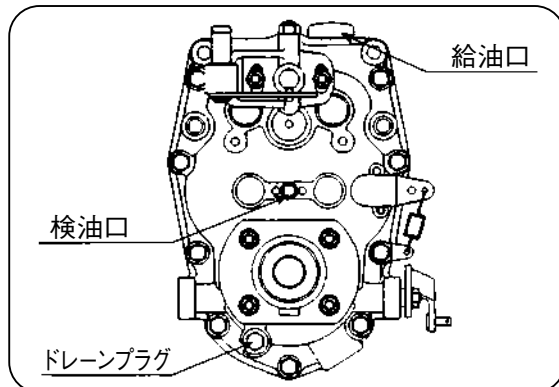
エンジンを停止したあと、5分間以上たってからオイル量の点検を行ないます。

オイルが不足しているときは、規定量になるまでオイルを追加補給します。

## 2. ミッションケースのオイル点検と交換

### (1) オイルの点検

検油ボルトを外して、オイルが検油口から出てくれば適正量です。不足しているときは給油口から規定量になるまで給油してください。さらに油もれのないことも調べてください。



### (2) オイルの交換

オイルの交換は1回目100時間、2回目以降は200時間毎に行なってください。

- ①ドレーンプラグを外し、オイルを排出します。
- ②排出が終わりましたら、ドレーンプラグを取付けます。

オイルの種類	規定オイル容量
ギヤオイル #90	1L

### 重要

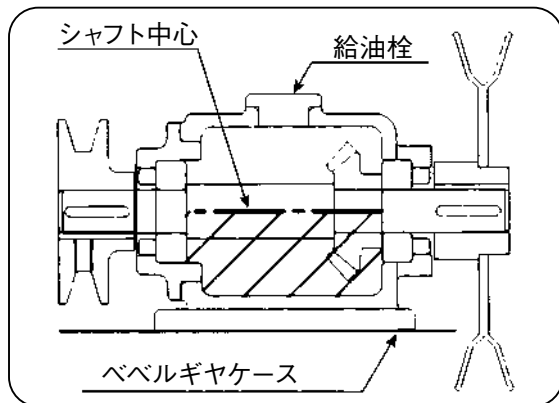
- ミッションオイルを補給・交換するときは、給油口の周りをきれいにしてください。ミッションケース内に泥などが混入すると、故障の原因となります。

### 3. ベベルギヤケースのオイル点検

#### (1) オイルの点検

給油栓を外して、規定量のシャフト中心までオイルがあるか点検してください。不足しているときは、給油口から給油してください。

オイルの種類	規定オイル容量
ギヤオイル#90	シャフト中心まで



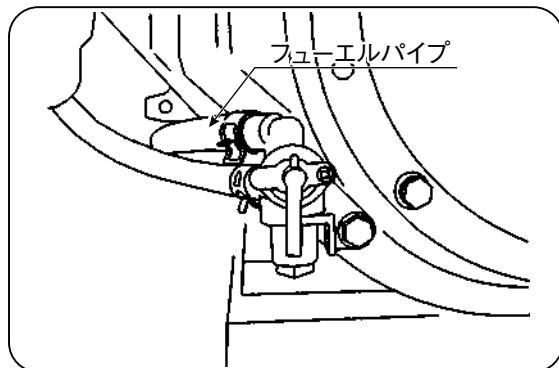
### 4. パイプ・ホース類の点検と交換

#### 警告

- 燃料系ゴムホースが破損すると燃料もれを起こし、火災の原因になります。

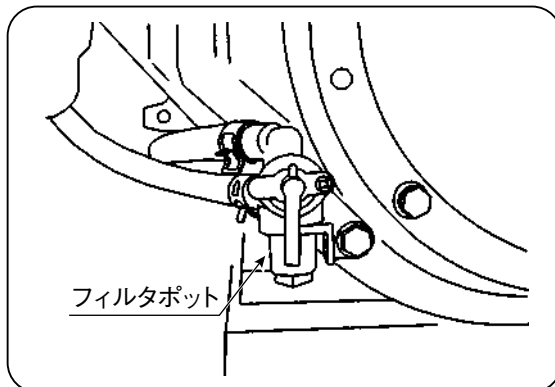
燃料系ゴムホースなどのゴム製品は使わなくとも老化する消耗品です。1年ごとまたは傷んだときには、交換してください。

また、パイプ・ホース類が傷んだり、締付けバンドがゆるんでいないか、常に注意してください。



### 5. 燃料フィルタの掃除

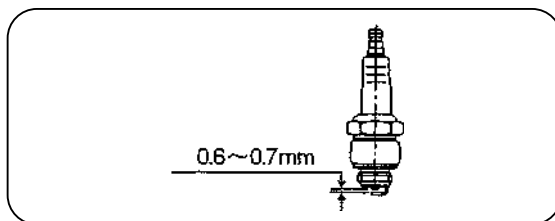
フィルタポットにほこりや水などが溜まっている場合は、フィルタポットを外して中のこし網をガソリンで洗浄してください。



### 6. 点火プラグの調整

電極のすき間を確認し、範囲内に調整してください。

型式名	すき間
NGK BPR5ES (抵抗入り)	0.6~0.7



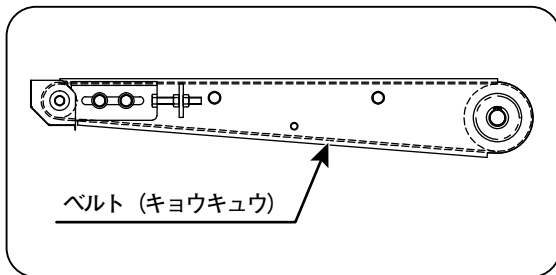
#### 注意

- 点火プラグを取付けるときは、はじめ手でねじ込んでから、ボックススパナで締め込んでください。

## 7. 各ベルト・チェーン・ワイヤの調整

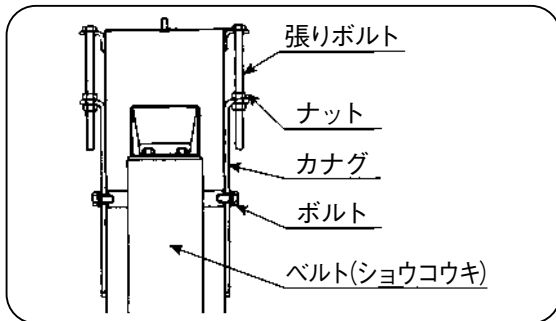
### ■ベルト (キョウキュウ)

ベルトがスリップしたり、片寄りする場合は、固定ボルトとナットをゆるめ、張りカナグを左右均等に張り調整してください。このとき、強く張り過ぎないように注意してください。



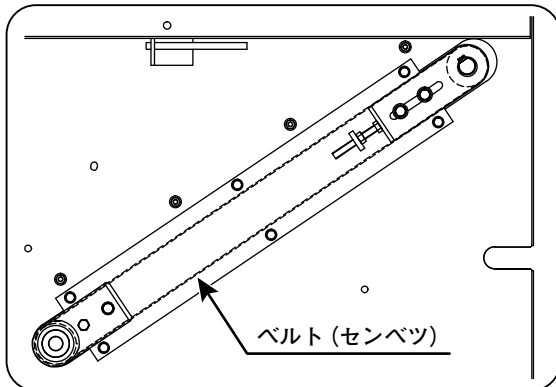
### ■ベルト (ショウコウキ)

ベルトがスリップしたり、片寄りする場合は、固定ボルトとナットをゆるめ、張りボルトでカナグを左右均等に張り調整してください。



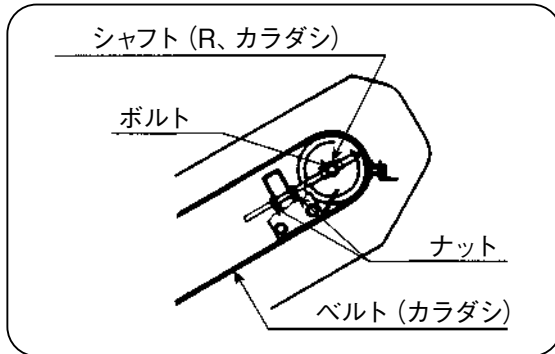
### ■ベルト (センベツ)

ベルトがスリップしたり、片寄りする場合は、固定ボルトとナットをゆるめ、張りカナグを左右均等に張り調整してください。このとき、強く張り過ぎないように注意してください。



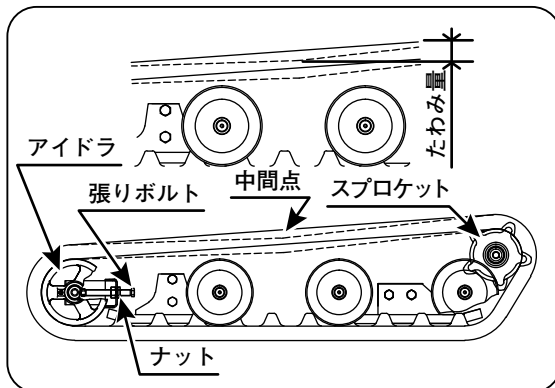
### ■ベルト (カラダシ)

ベルトがスリップしたり、片寄りする場合は、固定ボルトとナットをゆるめ、シャフト (R、カラダシ) を左右均等に張り調整してください。



### ■クローラ

スプロケットとアイドルの中間点でクローラのたわみ量が5~9mmになるように張りボルトで調整し、進行方向回転で1分間慣らし運転をしてください。運転後再度確認して、張りボルトをナットで固定してください。

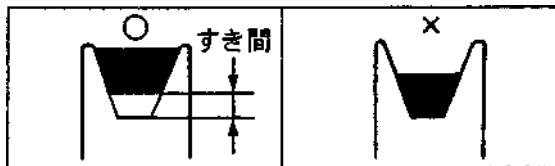


Vベルトを点検するときは、下記の事項をよく確認してください。異常があればベルトの交換を行なってください。ベルトの交換は購入先へ連絡して行なってください。

(1)ベルトの焼付きや摩耗、被覆のはがれ、き裂やひび割れ。

焼付きや摩耗	被覆のはがれ	き裂やひび割れ
×	×	×

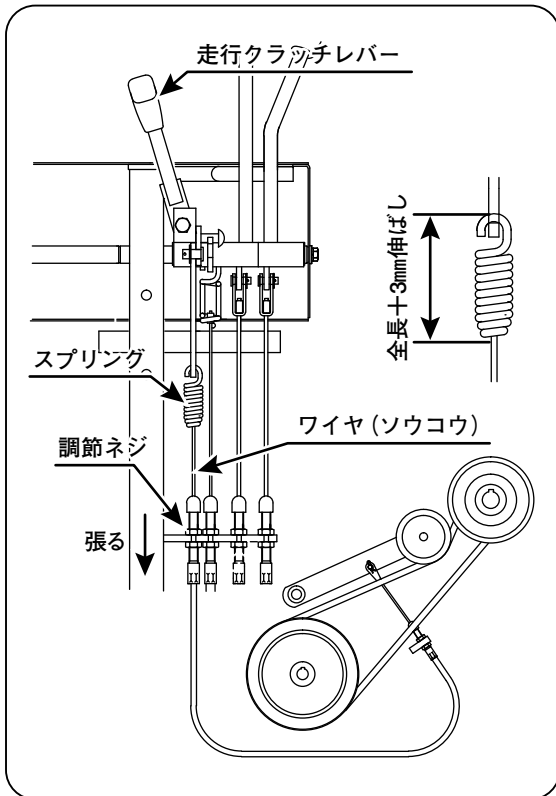
(2)ベルトの底部とプーリ



### ■走行クラッチベルト

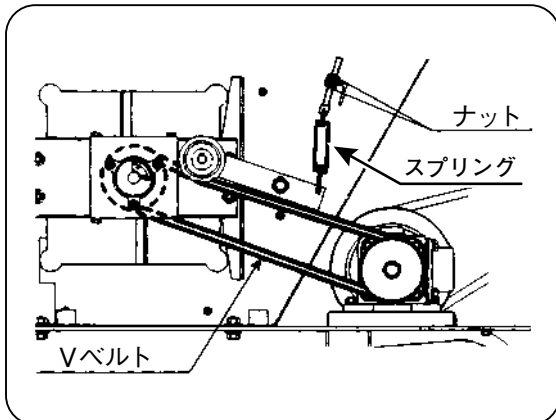
「ワイヤ（ソウコウ）の調整」

ワイヤ（ソウコウ）のアウタワイヤの調節ネジを固定しているナットをゆるめ、スプリングの伸び寸法が3mmとなるように調整してください。



### ■脱穀部駆動ベルト

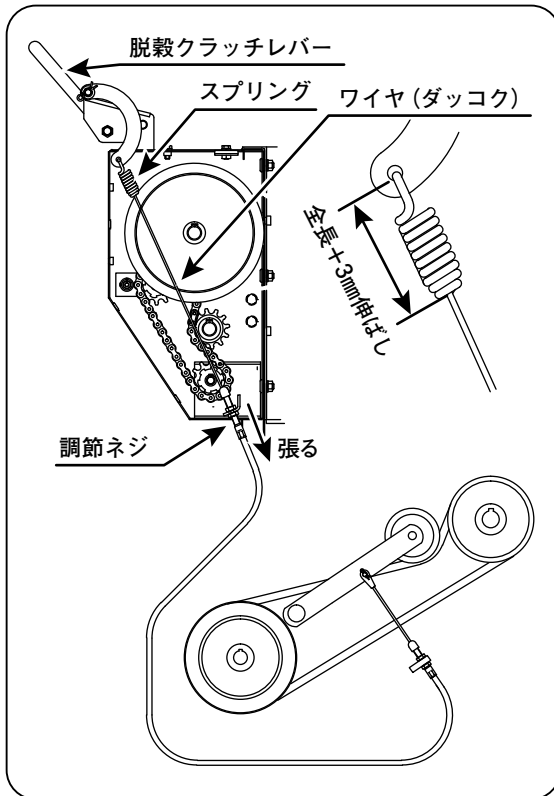
Vベルトがスリップするときは、固定ナットをゆるめ、スプリングのフック内側の長さを108mmになるように張り調整してください。



### ■脱穀クラッチベルト

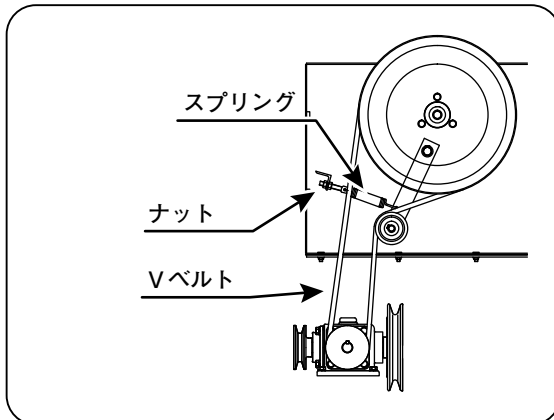
「ワイヤ（ダッコク）の調整」

ワイヤ（ダッコク）のアウタワイヤの調節ネジを固定しているナットをゆるめ、スプリングの伸び寸法が3mmとなるように調整してください。



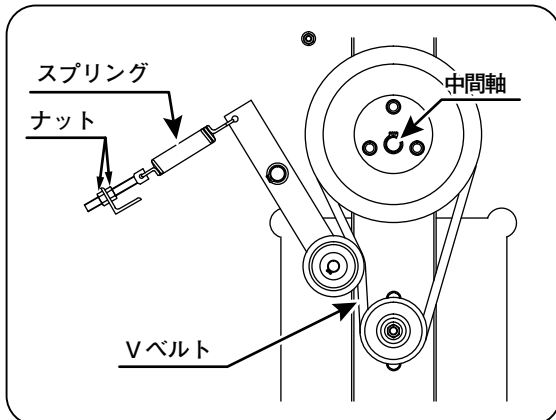
### ■こき胴駆動ベルト

Vベルトがスリップするときは、固定ナットをゆるめ、スプリングのフック内側の長さを103mmになるように張り調整してください。



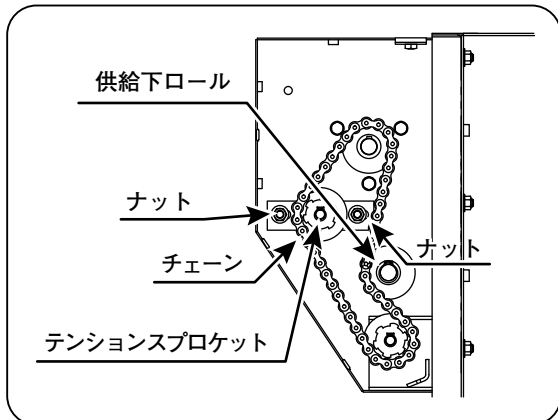
### ■中間軸駆動ベルト

Vベルトがスリップするときは、固定ナットをゆるめ、スプリングのフック内側の長さを98mmになるように張り調整してください。



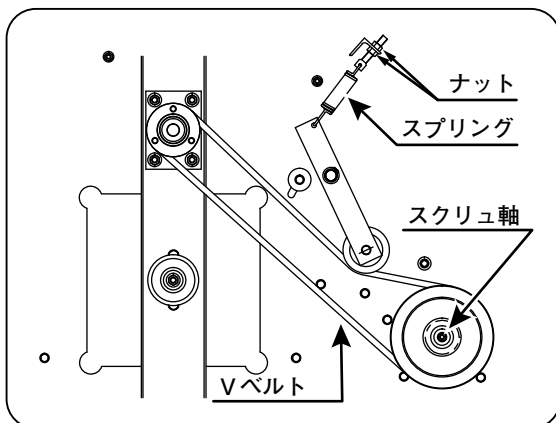
### ■供給下ロール駆動チェーン

テンションスプロケットを固定しているナットをゆるめ張り直します。



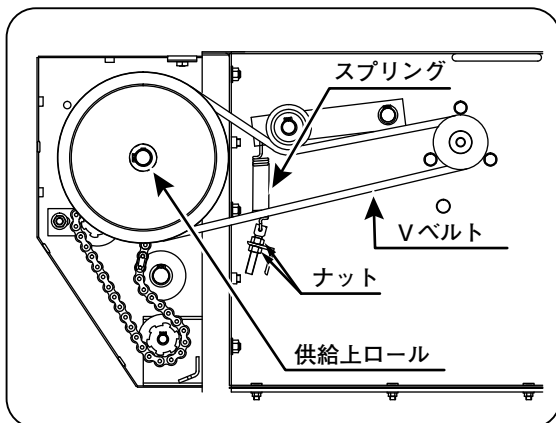
### ■スクリュ軸駆動ベルト

Vベルトがスリップするときは、固定ナットをゆるめ、スプリングのフック内側の長さを98mmになるように張り調整してください。



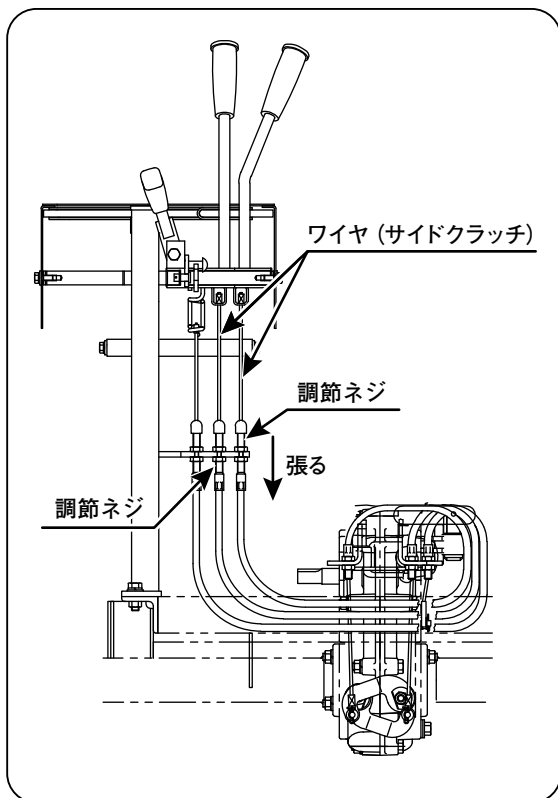
### ■供給上ロール駆動ベルト

Vベルトがスリップするときは、固定ナットをゆるめ、スプリングのフック内側の長さを100mmになるように張り調整してください。



### ■サイドクラッチワイヤ

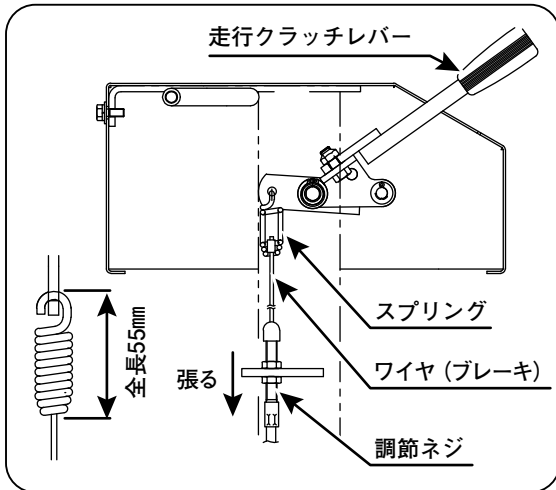
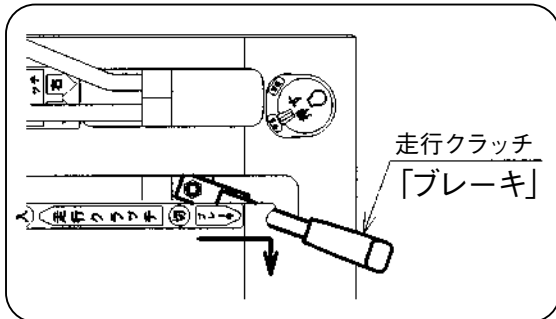
ある程度使用すると、ワイヤが伸びクラッチの切れがわるくなることがあります。クラッチが切れるよう、アウトワイヤの調節ネジを固定しているナットをゆるめ、調整してください。





## ■駐車ブレーキワイヤ

走行クラッチレバーを「ブレーキ」の位置にして、スプリングの全長を55mmになるように張り調整してください。



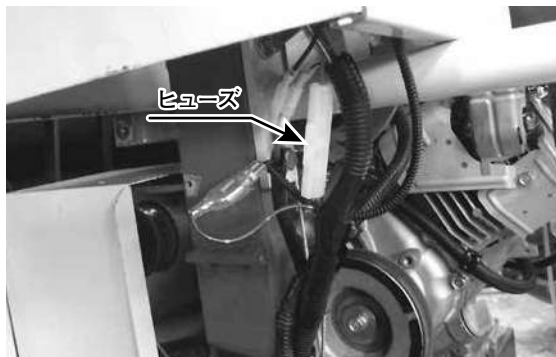
## 8. 電気配線とヒューズの点検

### ■電気配線の点検

配線の端子部のゆるみは接続不良になります。端子(ターミナル)は確実に入れ、ロックしたことを確認してください。また、配線が損傷するとショート(短絡)、漏電、焼損の原因となり大きな事故になることがあります。傷んだ配線は早めに修理、交換してください。

### ■ヒューズの点検

ヒューズは、電気回路に定格以上の電流が流れると電気回路の保護、加熱や発火などの電気火災事故を防止するためのものです。ヒューズが切れたときは、バッテリーへの充電ができなくなり、メインスイッチでは始動せず、リコイルでの始動になりますので交換してください。



### 洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤ると人にケガをさせたり、機械を破損・損傷・故障させることがありますので、高圧洗車機の取扱説明書、ラベルに従って正しく使用してください。

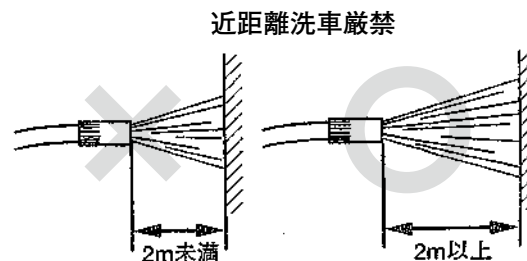
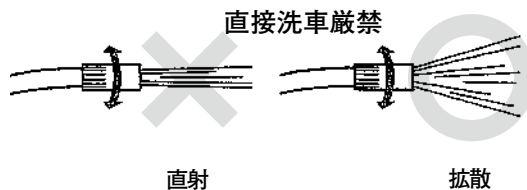
### ⚠警告

- 機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし、2m以上離して洗車してください。もし、直射にしたり、不適切に近距離から洗車すると、電気配線の損傷、断線により、火災を引き起こすおそれがあります。
- エンジンには水をかけないでください。エンジントラブルの原因になります。
- 電装部品には水をかけないでください。火災の原因になります。

### 重要

- 洗車のしかたが不適切な場合、以下のような機械の破損・損傷・故障の原因になります。

- 例(1)シール・ラベルの剥がれ  
 (2)エンジン内部への侵入による故障  
 (3)クローラなどのゴム類の破損  
 (4)塗装・メッキ面の被膜剥がれ  
 (5)電装部品の故障



## バッテリーの取扱い

### ⚠ 注意

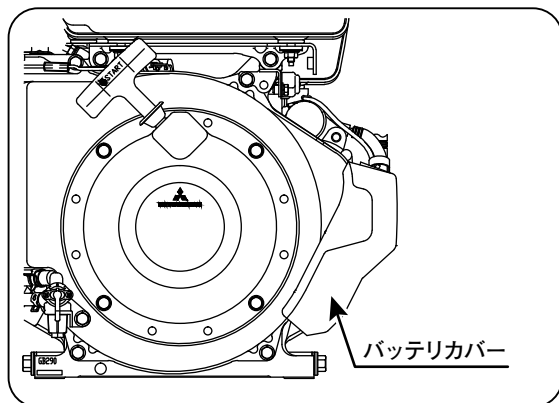
- バッテリーカバーを外して使用しないでください。
- バッテリーを火中に投下したり、火気に近づけたり、加熱したり、また高温状態で放置したりすると、発熱、発火、破裂することがあります。
- バッテリーの分解・改造をすると発熱、発火、破裂の原因となります。
- バッテリーはエンジン運転中に自動で充電されます。指定以外の充電方法で充電すると、発熱、発火、破裂することがあります。
- バッテリーはエンジン始動専用です。指定以外の用途に使用すると、発熱、発火、破裂することがあります。
- バッテリーに強い衝撃を与えた場合、あるいは外観に明らかな変形や破損が見られる場合には使用をやめてください。
- バッテリーコードを強く引っ張らないでください。
- バッテリーを外部充電しないでください。
- バッテリーから漏液したり、異臭がするときには、ただちに火気より遠ざけてください。
- バッテリーを工具等でショートやスパークさせないでください。

### ■バッテリーの仕様

本製品は充電式リチウムイオンバッテリーを使用しています。

バッテリーは、バッテリーカバー内にあります。

定格電圧	DC12.8V
定格容量	1.0Ah
使用温度範囲	0~60℃



### ■バッテリーの充電方法

バッテリーはエンジン運転中に自動で充電されます。

#### 充電が切れた場合は

- ①「エンジンの始動」を参照しリコイルスタータにてエンジンを始動します。
- ②アクセルレバー「高」の位置で下図の時間で充電できます。

満充電	約30分
始動1回分の充電	約1分

### 重要

- 短い休止時間で断続的にまわすことでバッテリーが発熱し内部の保護機能が作動しますのでおやめください。
- 保護機能が作動したバッテリーパックは充放電ができなくなるため交換が必要です。
- 低温時はバッテリーの出力特性が弱くなるため始動できない場合があります。その際は、リコイルで始動してください。

### ■バッテリーの寿命

- ①じゅうぶんな時間や高速運転による充電を行っても始動回数が少なくなった場合。
- ②5秒以上まわし続けること、または短い休止時間で断続的にまわすことで、バッテリーパックが発熱し、内部の保護機能が作動したため、充放電出来なくなった場合。

### ■バッテリーの交換

リチウムイオンバッテリーは回収・再資源化が義務付けられています。

バッテリーパックを家庭用ごみとして処分しないでください。

交換・廃棄するときは、お買い上げの購入店または弊社までお問い合わせください。

### 使用者が行なってはいけない修理

下記部品に異常があるときはお買い上げの購入先に修理を依頼してください。

- エンジン本体
- ミッションケース
- 電気部品と電気系統

### 使用済廃棄物の処理について

機械の廃油や廃棄物をむやみに捨てるとう環境汚染になります。

機械から廃油を抜く場合は、容器に受けてください。

地面へのたれ流しや川、湖沼への廃棄は絶対に

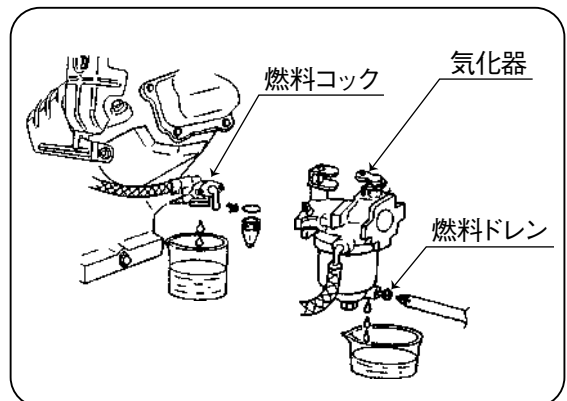
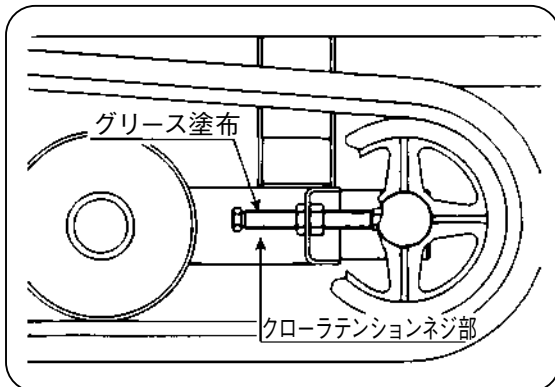
しないでください。

廃油・燃料・フィルタ・その他有害物を捨てる  
ときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者に依  
頼してください。

## 長期格納のしかた

### 警告

- カバーをかけたり、納屋に格納するとき、各種メンテナンスをするときは、ヤケドや火災のおそれがあるため、エンジンが冷えてからにしてください。
  - 燃料を抜く時は、火気の近くやくわえタバコで作業しないでください。火災や爆発の危険があります。
  - 燃料がこぼれたときは、きれいにふき取ってください。火災や爆発のおそれがあります。
- クローラテンションネジ部へのグリース  
長期格納前にグリースアップしてください。  
(左右共)



- ① 各部に付着した泥や汚れをきれいに掃除してください。
- ② 回転部やベルト等に巻付いているものを取除いてください。
- ③ 豆や枝等が残っていると、ねずみの巣になりますのできれいに掃除口などから取除いてください。
- ④ ネジのゆるみやベルトの伸びがないかチェックし次の年の作業にそなえてください。
- ⑤ 注油箇所にじゅうぶん注油してください。
- ⑥ 湿気の少ない場所にシートを掛けて保管してください。
- ⑦ エンジンを30日以上お使いにならない場合は、燃料の変質による始動不良等を防止するために気化器内の燃料を燃料ドレンネジを緩めて抜いてください。又、燃料コックから燃料を抜いてください。

# 不調の原因と処置

現象	原因	処置	参照ページ	
エンジンがかからない	セルモーターは回る	燃料がない	燃料があるか点検し、ない場合は補給する（火気厳禁）	12
		エアクリーナ・フューエルフィルタの目づまり	エアクリーナ・フューエルフィルタの目づまりがないか点検し、掃除または交換する フューエルパイプの折れ破損を点検し、異常があれば交換する	23・25
		燃料の種類が違う	自動車用レギュラーガソリン(無鉛)を補給する	12
		緊急停止スイッチが「運転」になっていない	緊急停止スイッチを「運転」の位置にする	14
	セルモーターが回らない	走行クラッチレバーが「ブレーキ」の位置になっていない	走行クラッチレバーを「ブレーキ」の位置にする	14
		脱穀クラッチレバーが「切」の位置になっていない	脱穀クラッチレバーを「切」の位置にする	14
		バッテリーが上がっている	リコイルスタータのハンドルを引いて始動する	16
		バッテリーが充電されない	ヒューズを点検し、切れていた場合は交換する バッテリーを交換する	29
		ハーネスの接続不良	ハーネスの接続を点検する	29
	緊急停止スイッチを押して「停止」にしてもエンジンが止まらない	スイッチが接地（アース）されていない	ハーネスの接続を点検する	29
詰まる	供給量が多すぎる	供給量を少なくする	20	
	材料の乾燥が悪い	材料を乾燥してから供給する	19	
	回転数が低い	回転数を正規にする	19	
	伝導ベルトのスリップ	ベルトを張るか交換する	26	
選別が悪い	トウミの風が弱い	風を強くする	13	
	根付きで供給している	根を切って供給する	19	
	傾斜地で作業している（機械の傾き）	機械を水平にセットする	14	
	回転数が低い	回転数を正規にする	19	
2番への整粒が多く出る	トウミの風が強い	風を弱くする	20	
	回転数が高い	回転数を正規にする	19	
	傾斜地で作業している（供給側が高い）	機械を水平にセットする	14	
	かためて大量に供給している	薄く、均平に供給する	20	
未脱粒がある	材料の乾燥が悪い	材料を乾燥してから供給する	19	
	かためて大量に供給している	薄く、均平に供給する	20	
	回転数が低い	回転数を正規にする	19	
割れ豆が多い	回転数が高い	回転数を正規あるいは低めに設定する	20	
	過乾燥	乾燥を戻してから供給する	20	

# 仕様

型 式		SJ-2502C
機 体 寸 法	全長（格納時）	3025mm（2602mm）
	全幅（格納時）	1529mm（1060mm）
	全高（格納時）	1354mm（1593mm）
重 量		442kg
適 応 作 物		大豆・黒大豆・小豆
供 給 方 法		自動供給型（ベルト供給）
脱 粒 方 式		軸流方式
排 かん 方 式		連続排かん方式
供 給 幅		480mm
脱 穀 幅		510mm
こき胴回転数		370rpm
能 率 （水分18%以下時）		400～800kg/h
搭 載 エ ン ジ ン	種 類	空冷4サイクルOHVガソリン
	出 力	6.0PS/1800rpm〈最大8.5〉
	始 動 方 式	セル／リコイル
走 行 部		クローラ自走式 前進2段 後進1段

# オプション

## ■小豆キット

小豆の作業をする時に使用します。

品 番	品 名	型 式 名
19883-00000	小豆キット	SJ-AK

# 安全説明確認カード

説明者（販売店・農協）控

年 月 日

私は説明員から安全についての説明をききました。

ご使用者住所

氏名

①

販売店・農協名

担当者

型 式

製造番号

## 【基本事項】

チェック

1. 作業管理者を決めること。	
2. 作業に適した健康人であること。	
3. 取扱説明書をよく読み、理解していること。	
4. 使用目的が本機の要求目的と合致していること。	
5. 不当な改造をしないこと。	

## 【作業について】

チェック

1. 安全ラベルの注意事項を守ること。	
2. 作業場所の換気と明るさに注意を払うこと。	
3. 作業は水平でしっかりした場所で行なうこと。	
4. 作業に合った服装で行なうこと。軍手は使用しないこと。	
5. 毎日作業前にエンジン・脱粒機の点検・掃除を行なうこと。	
6. 燃料補給時の注意 <ul style="list-style-type: none"><li>●必ずエンジンを停止し、冷えてから行なうこと。</li><li>●火気の近くやくわえタバコでは絶対に行かないこと。</li><li>●キャップは確実に締め、こぼれた燃料はふきとること。</li></ul>	
7. エンジン始動時の注意 <ul style="list-style-type: none"><li>●カバー類を必ず取付けること。</li><li>●周囲の安全を確認すること。</li><li>●必ずクラッチを切ること。</li></ul>	
8. 回転中は供給口・排出口の中に絶対手を入れないこと。	
9. エンジン運転中と停止後10分間はエンジンに触れないこと。	
10. 機械から離れる時は必ずエンジンを停止し、ブレーキを掛け冷えるまで待つこと。	
11. 回転中は周囲に人を近づけないこと。	
12. 作業中に詰まったり異常が発生したときは、すぐにエンジンを停止すること。	
13. 作業中は回転物に絶対手を触れないこと。	
14. 2番の袋を脱着する時は、必ずエンジンを停止してから行なうこと。	
15. 供給物を引っ張ったり、押し込んだりしないこと。	
16. 供給物に異物が混入しないように注意すること。	
17. 積降しの方向を必ず守ること。（積込み前進1速、積降し後進1速）	
18. 積込み、積降しは平坦な場所で行ない、トラックの駐車ブレーキをしっかりと掛けること。	
19. アユミ板は、荷台の高さの4倍以上の長さで頑丈ですべり止めのあるものを使用すること。	
20. アユミ板上、傾斜地では、変速、方向操作はしないこと。	
21. 発進時は、周囲の安全を確認し、急発進、急旋回はしないこと。	
22. 公道の走行はしないこと。	
23. 移動する時は必ず脱穀クラッチを切ること。	

## 【点検・格納について】

チェック

1. 点検・調整はエンジンを停止し、回転が止まってから行なうこと。	
-----------------------------------	--





# 安全確認一覧表

## 【基本事項】

1. 作業管理者を決めること。
2. 作業に適した健康人であること。
3. 取扱説明書をよく読み、理解していること。
4. 使用目的が本機の要求目的と合致していること。
5. 不当な改造をしないこと。

## 【作業について】

1. 安全ラベルの注意事項を守ること。
2. 作業場所の換気と明るさに注意をはらうこと。
3. 作業は水平でしっかりした場所で行なうこと。
4. 作業に合った服装で行なうこと。軍手は使用しないこと。
5. 毎日作業前にエンジン・脱粒機の点検・掃除を行なうこと。
6. 燃料補給時の注意 <ul style="list-style-type: none"><li>●必ずエンジンを停止し、冷えてから行なうこと。</li><li>●火気の近くやくわえタバコでは絶対に行なわないこと。</li><li>●キャップは確実に締め、こぼれた燃料はふきとること。</li></ul>
7. エンジン始動時の注意 <ul style="list-style-type: none"><li>●カバー類を必ず取付けること。</li><li>●周囲の安全を確認すること。</li><li>●必ずクラッチを切ること。</li></ul>
8. 回転中は供給口・排出口の中に絶対手を入れないこと。
9. エンジン運転中と停止後10分間はエンジンに手を触れないこと。
10. 機械から離れる時は必ずエンジンを停止し、ブレーキを掛け冷えるまで待つこと。
11. 回転中は周囲に人を近づけないこと。
12. 作業中に詰まったり異常が発生したときは、すぐにエンジンを停止すること。
13. 作業中は回転物に絶対手を触れないこと。
14. 2番の袋を脱着する時は、必ずエンジンを停止してから行なうこと。
15. 供給物を引っ張ったり、押し込んだりしないこと。
16. 供給物に異物が混入したりしないように注意すること。
17. 積降しの方向を必ず守ること。(積込み前進1速、積降し後進1速)
18. 積込み、積降しは平たんな場所で行ない、トラックの駐車ブレーキをしっかり掛けること。
19. アユミ板は、荷台の高さの4倍以上の長さで頑丈ですべり止めのあるものを使用すること。
20. アユミ板上、傾斜地では、変速、方向操作はしないこと。
21. 発進時は、周囲の安全を確認し、急発進、急旋回はしないこと。
22. 公道の走行はしないこと。
23. 移動する時は必ず脱穀クラッチを切ること。

## 【点検・格納について】

1. 点検・調整はエンジンを停止し、回転が止まってから行なうこと。
-----------------------------------

## 純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買求め下さい。  
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

## 純正オプションを使いましょう

純正オプションは、一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。  
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。



株式会社 齋藤農機製作所

- 本社・工場 〒998-0832 山形県酒田市両羽町332番地  
TEL0234(23)1511(代) ファクシミリ0234(26)4161
- 北海道営業所 〒079-0181 北海道岩見沢市岡山町18番地  
TEL0126(24)5401(代) ファクシミリ0126(24)5402
- 九州営業所 〒861-8039 熊本県熊本市東区長嶺南1丁目1番10号  
TEL096(384)6865(代) ファクシミリ096(384)6864

品番 19228-7111-1